

～資料編～

目次



- 1 評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 外国語）
平成23年7月【国立教育政策研究所教育課程研究センター】・・・69
 - ・第2編 評価規準に盛り込むべき事項等
 - ・第3編 評価に関する事例

- 2 言語活動の充実に関する指導事例集 ・・・97
～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～平成23年5月【文部科学省】

- 3 高知県教育委員会作成資料 ・・・117
 - ・指導改善のポイント（『平成23年度学力定着状況調査報告書』より）
 - ・小学校外国語活動における言語活動の充実を目指した指導方法
 - ・中学校外国語科における言語活動の充実を目指した指導方法
（『教育課程改善のための指導資料』より）
 - ・新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料
解説資料一覧表
 - ・英語ライティングシート活用事例
 - ・目標・言語活動の指導事項・評価規準等の一覧表

- 4 実践例 ・・・131
 - ・到達目標例 【東京都国分寺市立第一中学校 相沢 秀和主任教諭】
 - ・CAN- DO リスト例 【東京都港区赤坂中学校 北原 延晃教諭】

- 5 様式例 ・・・134
 - ・指導計画マトリックス表
 - ・学年目標、全体指導計画マトリックス表、学年年間指導計画例
 - ・学習指導案例
 - ・辞書引き指導ワークシート

1 評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料
(中学校 外国語)

平成23年7月

国立教育政策研究所

教育課程研究センター

第2編

評価規準に盛り込むべき事項等

第2編 評価規準に盛り込むべき事項等

第1 教科目標、評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

学習指導要領を踏まえ、外国語科の特性に応じた評価の観点及びその趣旨は以下のとおりである。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

3 内容のまとめ

外国語科においては、学習指導要領の内容の言語活動における「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を内容のまとめとした。

第2 内容のまとめごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

英語

1 目標

- (1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
- (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- (4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

2 学習指導要領の内容、内容のまとめごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

(1) 「聞くこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 言語活動

英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動を3年間を通して行わせる。

ア 聞くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。
- (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。
- (ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
- (エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。
- (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

【「聞くこと」の評価規準に盛り込むべき事項】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 様々な工夫をして、聞き続けようとしている。	/	英語で話されたり読まれたりする内容を正しく聞き取ることができる。 場面や状況に応じて英語を適切に聞いて理解することができる。	英語やその運用についての知識を身に付けている。 言語の背景にある文化について理解している。

【「聞くこと」の評価規準の設定例】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
(言語活動への取組) ・相づちをうったりメモをとったりするなど、相手の話に関心をもって聞いている。 ・聞いたことについて簡単な言葉や動作などで反応している。 (コミュニケーションの継続) ・相手に聞き返すなどして、言われたことを確認しながら聞き続けている。	/	(正確な聞き取り) ・強勢やイントネーション、区切りなどの特徴をとらえて聞き取ることができる。 ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して短い英語の内容を正しく聞き取ることができる。 (適切な聞き取り) ・話されている内容から話し手の意向を理解することができる。 ・質問や依頼などを聞いて、簡単な言葉や動作などで適切に応じることができる。 ・まとまりのある英語を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。	(言語についての知識) ・発音の違いや音変化に関する知識を身に付けている。 ・基本的な強勢やイントネーションなどの違いを理解している。 (文化についての理解) ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「聞くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

(2) 「話すこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 言語活動

英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動を3学年間を通して行わせる。

イ 話すこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。

- (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。
- (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。
- (オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

【「話すこと」の評価規準に盛り込むべき事項】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>様々な工夫をして、話し続けようとしている。</p>	<p>自分の考えや気持ち、事実などを英語で正しく話すことができる。</p> <p>場面や状況に応じて英語で適切に話すことができる。</p>	/	<p>英語やその運用についての知識を身に付けている。</p> <p>言語の背景にある文化について理解している。</p>

【「話すこと」の評価規準の設定例】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違ふことを恐れず積極的に自分の考えなどを話している。 ・聞き手が理解しやすくなるように工夫して話している。 ・問答したり意見を述べ合ったりなどしている。 <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つなぎ言葉を用いるなどして話を続けている。 ・身振り手振り、知っている語句や表現をうまく利用して自分の考えなどを話している。 	<p>(正確な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて話すことができる。 ・語句や表現，文法事項などの知識を活用して正しく話すことができる。 <p>(適切な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 ・尋ねられたことに対して適切に応答することができる。 ・適切な声量や明瞭さで話すことができる。 ・聞き手を意識して，強調したり繰り返したりして話すことができる。 ・与えられたテーマについて，自分の意見 	/	<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音の違いに関する知識を身に付けている。 ・基本的な強勢の違いを理解している。 ・基本的なイントネーションの違いを理解している。 ・基本的な区切りについて理解している。 ・話を続けるために必要なつなぎ言葉や相づちをうつ表現などを知っている。 <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭，学校や社会における日常の生活や風俗習慣など，「話すこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

	や主張をまとめよく話すことができる。	
--	--------------------	--

(3) 「読むこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 言語活動

英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動を3学年間を通して行わせる。

ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。
- (エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。
- (オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

【「読むこと」の評価規準に盛り込むべき事項】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	英語を正しく音読することができる。	英語で書かれた内容を正しく読み取ることができる。	英語やその運用についての知識を身に付けている。
様々な工夫をして、読み続けようとしている。	英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読することができる。	目的に応じて英語を適切に読んで理解することができる。	言語の背景にある文化について理解している。

【「読むこと」の評価規準の設定例】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
(言語活動への取組) ・読んだことについて、メモをとったり簡単な言葉や動作などで反応したりしている。 ・辞書を活用して読んでいる。 ・積極的に音読している。	(正確な音読) ・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。	(正確な読み取り) ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しく読み取ることができる。	(言語についての知識) ・基本的な強勢やイントネーションなどの違いを理解している。 ・語句や文、文法などに関する知識を身に付けている。
(コミュニケーションの継続) ・繰り返して読んだり読み返したりして読み続けている。	(適切な音読) ・意味内容にふさわしく音読することができる。 ・適切な声量や明瞭さで音読することがで	(適切な読み取り) ・あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。 ・書かれた内容から書き手の意向を読み取	(文化についての理解) ・家庭、学校や社会における日常の生活や風俗習慣など、「読むこと」の言語活動に必要な文化的背景

	きる。	ることができる。 ・伝言や手紙などを読んで、その内容にあわせて適切に応じることができる。 ・文や文章を目的に応じた適切な速さで読み取ることができる。 ・話の内容や書き手の意見などを批判的に読むことができる。	について理解している。
--	-----	--	-------------

(4)「書くこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 言語活動

英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動を3学年間を通して行わせる。

エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

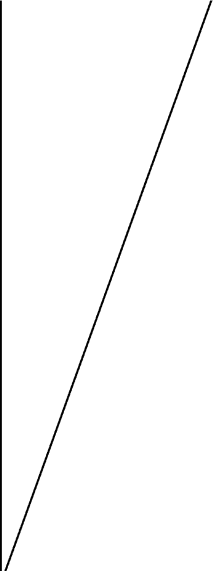
- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。
- (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。
- (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

【「書くこと」の評価規準に盛り込むべき事項】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 様々な工夫をして、書き続けようとしている。	自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる。 目的に応じて英語で適切に書くことができる。	/	英語やその運用についての知識を身に付けている。 言語の背景にある文化について理解している。

【「書くこと」の評価規準の設定例】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
(言語活動への取組) ・間違ふことを恐れず積極的に書いている。 ・読み手が理解しやすくなるように書いたり、書き直したりし	(正確な筆記) ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく書くことができる。	/	(言語についての知識) ・文字や符号を使い分ける知識を身に付けている。 ・文構造や語法、文法などに関する知識を身に付けている。

<p>ている。 ・辞書を活用して書いている。</p> <p>(コミュニケーションの継続)</p> <p>・うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。</p>	<p>(適切な筆記)</p> <p>・場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。 ・感想や内容に対しての賛否に加えてその理由を書くことができる。 ・内容的にまとまりのある文章を書くことができる。</p>		<p>・正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。</p> <p>(文化についての理解)</p> <p>・家庭、学校や社会における日常の生活や風俗習慣など、「書くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。</p>
---	--	--	---

第3編

評価に関する事例

第3編 評価に関する事例

1 評価規準の設定について

(1) 評価規準の設定における基本的な考え方

第2編で示した外国語科の評価規準の設定例は、主に単元の評価規準を設定する際の参考となるように作成している。

評価規準を設定する際は、単元の指導のねらい、教材、学習活動等に応じて適切な評価規準を設定することが大切である。

外国語科においては、学習指導要領で3学年間を通じて目指すべき目標が示されており、各学校において学年ごとの目標を定め、指導計画を適切に作成することとなっている。このため、各学校の年間計画に基づき、単元の目標や内容、学習活動を明確にして計画を立て、評価規準を設定する必要がある。

また、異なる学年であっても同じ「評価規準の設定例」を活用する場合が考えられる。例えば、「書くこと」における「外国語表現の能力」の評価規準の設定例である「語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく書くことができる」を活用する場合を考えると、文を書かせて評価するという方法は同じであるが、「知識を活用して」の部分をもどの程度のものと捉えるかによって評価結果も異なるものとなる。学習の初期段階では、例えば「主語＋動詞＋目的語の語順を守って正しく書くことができる」など、文意を正しく伝達するための骨格になる部分を正確に表現できるかどうかを評価対象とすることが考えられる。そして、さらに学習が進んでいくと、例えば「受け身を用いて正しく書くことができる」などの評価規準を設定し、主語に応じた be 動詞を選択しているか、それを適切な時制にしているか、過去分詞形を正しく用いているか、必要に応じて動作主を by ～で述べているかなど、細かい部分にわたって正確に伝えることができているかどうかを評価対象とすることが考えられる。

(2) 評価規準の設定例等の活用

教科書の一つの課を扱う場合を想定して1課を単元とみなし、単元の評価規準を設定する際の「評価規準の設定例」の活用について解説する。

ア 年間指導計画を基に単元の内容を確認する。

まず、年間の指導及び評価の流れを見通して作成された年間指導計画における単元の位置付けを確認する。単元の目標については、扱われている題材内容や言語材料の特徴を踏まえ、表現や理解の能力に関わる事項を中心に設定されていることが望ましい。また、設定した目標をどの観点で評価するかについても確認する。

イ 単元の評価規準及び評価方法を設定する。

設定した目標に関係する各観点において、どの「評価規準の設定例」を参考にするかを確認し、実際の評価機会で適用する評価規準を設定する。例えば「町や観光地を口頭で案内する」という目標に対しては、「外国語表現の能力」の観点における設定例の一つである「場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる」に関連していることから、「場面や状況」を「町や観光地を口頭で案内する」と具体化して評価規準を設定することが考えられる（次の表を参照）。

なお、外国語科の場合、本資料の各事例において「単元の評価規準」として示しているものは、いずれも実際の評価機会でも適用する評価規準である。

評価方法に関しては、例えば「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の観点であれば活動の観察によって評価するなど、評価規準にふさわしい方法で行う必要がある。

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
設定例	(言語活動への取組) ①間違えることを恐れず積極的に自分の考えなどを話している。	(適切な発話) ①場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。	「単元の目標」に関連する設定例を選ぶ。	(言語についての知識) ①②文構造や語法、文法などに関する知識を身に付けている。
評価規準	①ペアワークにおいて、間違えることを恐れず話している。	①町や観光地を口頭で案内することができる。	「場面や状況」を具体的に絞る。	①助動詞 can を用いた文の構造を理解している。 ②疑問詞 when を用いた文の構造を理解している。

具体化

2 各事例のポイント

事例1 「ナイアガラの滝」(第1学年)

目標及び評価規準の設定、指導と評価の計画

一般的な単元の展開例に基づき、「単元の目標」や「単元の評価規準」の設定の手順、「指導と評価の計画」における具体的な評価計画や評価方法の例を示す。

事例2 「A Red Ribbon」(第3学年)

単元における目標及び評価規準の絞り込み

単元の目標及びそれに対応する評価規準を絞り込んだ事例を示す。ここでは、「読むこと」の指導に焦点を当て、「外国語理解の能力」に評価規準を絞ったものを紹介する。

事例3 「Places to Go, Things to Do」(第3学年)

技能統合型の活動における評価

領域間の関連付けを図る技能を統合した活動を行う場合の評価の在り方を示す。ここでは、「読むこと」から「書くこと」へと活動を関連付けたものを紹介する。

事例4 「世界遺産」「日本のマンガ・アニメ・映画」(第2学年)

複数の単元にわたる評価、文化についての理解の評価

同一の目標を二つの単元にわたって設定し、長いスパンで指導し評価する事例を示す。ここでは、「外国語表現の能力」の観点における評価規準の例を中心に紹介する。併せて、「言語や文化についての知識・理解」のうち、「文化についての理解」に関わる評価方法の例を示す。

時間	○ねらい ・ 学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	<p>○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ warm-up として、どんな観光地へ行ったことがあるかを対話する。 ・ 本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 <p>○助動詞 can を用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 助動詞 can を用いた文の構造を知る。 ・ 教科書本文を通して、can の使い方を理解する。 ・ 教科書本文から、町や観光地を案内する時に使われる表現を探す。 ・ can を用いた文を使えるように練習する。その際、町や観光地の場面も含めることに配慮する。 	エの①	<p>後日ペーパーテスト</p> <p>授業後など別の機会に評価することもできる。</p>
2	<p>○助動詞 can を用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 助動詞 can を用いた文の構造を知る。 ・ 教科書本文を通して、can を用いた疑問文の使い方を理解する。 ・ 教科書本文から、町や観光地を案内する時に使われる表現を探す。 ・ can を用いた文を使えるように練習する。 ・ can を用いた疑問文を用いて応答練習する。その際、町や観光地の場面も含めることに配慮する。 	エの①	後日ペーパーテスト
3	<p>○疑問詞 when を用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 疑問詞 when を用いた文の構造を知る。 ・ 教科書本文を通して、when の使い方を理解する。 ・ 教科書本文から、町や観光地を案内する時に使われる表現を探す。 ・ when を用いた文を使えるように練習する。その際、町や観光地の場面も含めることに配慮する。 	エの②	後日ペーパーテスト
4	<p>○町や観光地を案内する時の表現を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ We are going to ～, That's ～, We can see ～ など教科書で用いられている町や観光地を案内する時に使われる表現をまとめる。 ・ 他の表現を補足説明する。 ・ ペアで町や観光地を案内する表現を使う練習をする。 	アの①	<p>評価規準にふさわしい方法で。</p> <p>活動の観察</p>
5	<p>○町や観光地を案内する練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで町や観光地を案内し合う。 ・ グループで町や観光地を案内し合う。 ・ 全体の前で町や観光地を案内する。 	アの①	活動の観察
6	<p>○町や観光地を案内する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで町や観光地を案内する練習をする。 ・ バスで観光地を巡っている場面を想定して、紹介する場所や相手を変えながら他の生徒と自由に案内し合う。 ・ 上記の活動中に教師のところへ来て、2か所の町や観光地を案内する。 	<p>十分身に付いた段階で評価を。</p> <p>イの①</p>	ダイアログテスト
後日	<p><ペーパーテスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇外国人の友人について、できることを書いて紹介する問題 ◇場面を与えて適当な表現を書く問題 	<p>エの①</p> <p>エの②</p>	<p>ペーパーテスト</p> <p>ペーパーテスト</p>

(注)

・「○」は各時間のねらいを、「・」は具体的学習活動を表している。1時間目に○が二つあるのは、単元全体に関わる部分と本時に関わる部分を分けて示しているためである。

- ・各時に示されている評価方法は、全てをその時間内に評価することを意味しているわけではなく、「後日ペーパーテスト」など授業後に別の機会を設けて行う（定期テストで測ることも含めて）場合もある。
- ・「ダイアログテスト」では、生徒同士が町や観光地を案内し合っている時に教師のところへ来て案内させることで、評価の効率化を図っている。
- ・評価する前に十分に指導し練習できるようにしておく必要がある。この事例でも、1時間目から3時間目までは指導のみで評価の場面は設定していないが、1時間目の段階から、教科書本文の中から町や観光地を案内する時に使われる表現を探させたり、**can** を用いた文を使えるように練習する際に町や観光地の場面も含めたりするなど、ねらいとする能力や知識が身に付くような指導計画としている。

4 観点別評価の進め方

観点別評価においては、それぞれの評価規準ごとに、「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）のいずれの状況にあるのかを、次のような視点から判断することになる。

ア「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」

この観点は、コミュニケーションに取り組む様子やコミュニケーションを継続させようとする努力の様子がみられるかどうかを評価することとしている。したがって、そこで用いられている英語の正確さや適切さ、すなわち、運用上の能力などは評価しない。

＜言語活動への取組＞

自分の考えや気持ち、事実などを積極的に相手に伝えようとしたり、相手の考えなどを理解しようとしたりしているかどうか、つまり、コミュニケーションに取り組んでいる様子を評価する。

＜コミュニケーションの継続＞

コミュニケーションがとぎれそうになる時には、様々な手立てを用いてコミュニケーションを継続する努力が必要である。その努力の様子を評価する。

○この事例においては、次のような評価規準を設定した。

＜評価規準①＞ ペアワークにおいて、間違えることを恐れず話している。（言語活動への取組）

- ・ペアで町や観光地を案内する表現を使う練習や実際に町や観光地を案内する活動において、英語を用いて話しているかどうかを観察して判断する。

イ「外国語表現の能力」

この観点は、自分の考えや気持ち、事実などを誤解なく相手に伝えることができるかどうかを評価することとしている。

＜正確な発話、正確な筆記＞

強勢、イントネーション、文法などの言語についての知識を活用して、英語で正しく表現することができるかどうかを評価する。

＜適切な発話，適切な筆記＞

実際のコミュニケーションで誤解なく伝えるために，場面や状況に応じてふさわしい表現を選択したり，適切な声量や明瞭さで話したり，内容的にまとまりのある文章を書いたりすることができるかどうかなどを評価する。

○この事例においては，次のような評価規準を設定した。

＜評価規準①＞ 町や観光地を口頭で案内することができる。（適切な発話）

- ・教師とのやりとりの中で実際に町や観光地を案内するダイアログテストにおいて，学習した表現を適切に用いながら案内することができるかどうかをチェックし，判断する。

ウ「外国語理解の能力」

この観点は，相手の意向や具体的な内容など，相手が伝えようとすることを理解できるかどうか評価することとしている。

＜正確な聞き取り，正確な読み取り＞

強勢，イントネーション，文法などの言語についての知識を活用して，英語の内容を正しく理解することができるかどうかを評価する。

＜適切な聞き取り，適切な読み取り＞

場面や状況に応じた聞き方や，目的に応じた読み方をして英語を理解することができるかどうかを評価する。

○この事例においては，この観点による評価は行わない。

エ「言語や文化についての知識・理解」

この観点は，知識や理解がコミュニケーションを目的として言語を運用する支えになっているかどうかを評価することとしている。

＜言語についての知識＞

言語活動を行う中で，そこで用いられている強勢，イントネーション，文法事項など，英語の仕組みについての知識の有無を評価する。

＜文化についての理解＞

一般常識的な知識や百科事典のような内容ではなく，技能の運用で求められる，言語の背景にある文化に限って評価する。すなわち，理解をしていないとコミュニケーションに支障をきたすような文化的背景を評価の対象とする。

○この事例においては，次のような評価規準を設定した。

＜評価規準①＞ 助動詞canを用いた文の構造を理解している。（言語についての知識）

＜評価規準②＞ 疑問詞whenを用いた文の構造を理解している。（言語についての知識）

- ・コミュニケーションする場面を設定したペーパーテストにおいて，助動詞 can や疑問詞 when といった文法事項に関する知識を得たかどうかをチェックし，判断する。

実際の評価方法と，評価の結果「おおむね満足できる」状況（B）と判断した具体例を，アの①，イの①，エの②について以下に示す。

アの① ペアワークにおいて、間違えることを恐れず話している。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(1) 評価方法

4時間目と5時間目それぞれの機会に、ペアワークで英語を用いて話しているかどうかを観察する。

(2) 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した具体例

○ 4時間目の例 (ペアで町や観光地を案内する表現を使う練習をする場面)

S1: We are going to...

S2: Sky Tree! OK?

S1: OK, OK. Here we are.

S2: Ah...that's Tokyo Sky Tree.

S1: Yes, yes. We can...

S2: We can see...

S1: The top? No, no...

S2: Yes, the top, we can see Tokyo.

S1: Yes, all Tokyo!

⇒ S1・S2とも、躊躇せず発話しようとしているため、「B」と判断した。

イの① 町や観光地を口頭で案内することができる。(外国語表現の能力)

(1) 評価方法

ダイアログテストでの発話内容をチェックする。

※評価の手順：

① バスで観光地を巡っている場面を想定し (この事例では、長野という設定にしている)、教師に対して町や観光地2か所を案内する内容のテストであることを説明する。

② 長野の観光地の写真を2枚見せて10秒程度考える時間を与えた後、その場所を教師に対して案内させ、必要に応じて相づちや質問を返しながりやりとりをする。

【留意点】

・写真は生徒同士が練習に使用するものとは異なるが、生徒がよく知っている場所のものを用いる。

(2) 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した具体例

S: Here we are. That's Zenkoji Temple.

T: Oh, that's nice.

S: Yes. It's a very very old.

T: OK. How about this place?

S: We are going to Togakushi.

T: I see. What can we do there?

S: We can eat "soba."

⇒ 1枚目の写真については、それがどういう名前の建物であるのかを話した上で、「とても古い」という情報を追加している。もう一方の写真については、これから向かう先がどこであるか、またそこはどのような特徴のある所なのかについて説明している。学習した表現を適切に用いながら町や観光地を案内することができているため、「B」と判断した。

エの② 疑問詞whenを用いた文の構造を理解している。(言語や文化についての知識・理解)

(1) 評価方法

ペーパーテストで疑問詞 when を用いた文の構造の理解度をチェックする。

※評価の手順：

本単元の学習を終えた後、後日、以下のようなペーパーテストを実施する。

次のような場合に、相手に何とたずねますか。それぞれ英語で書きなさい。

(1) 誕生日 (birthday) をききたいとき

- (2) 今日はいつなら時間がある (free) かをききたいとき
 (3) テニスをする (play tennis) のはいつかをききたいとき

(2) 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した具体例

- (1) When is birthday?
 (2) When are you free?
 (3) When do you play tennis.

⇒いずれも「When + 疑問文の語順」で書くことができていることから、疑問詞 when を用いた文の構造を理解していると考えられるため、「B」と判断した。

【留意点】

- ・「疑問詞 when を用いた文の構造を理解している」とは、when は時をたずねる疑問詞であり、構造としては文頭に置かれ、その後は疑問文の語順を取ることを理解していることである。したがって、その部分のみを評価し、your や today の脱落など、ターゲット以外の誤りについてはここでの評価の対象としない。

5 観点別評価の総括

本事例における評価の観点ごとの総括については、次のように考えている。

まず最初に、観点ごとに設定された各評価規準について、上記で示したような方法によってA・B・Cの判断を行う。その上で、一つの観点に対して複数の評価規準を設定して評価する場合（本事例で言えば、「言語や文化についての知識・理解」の観点で①と②の二つの評価規準を設定）は、例えば「AA」ならA、「BB」ならB、「CC」ならCとする。その中間的な段階（「AB」など）については、単元の目標や評価した内容などに対して適宜重み付けをして総括することとなる。

例えば本事例において、「言語や文化についての知識・理解」に対する評価規準である「助動詞 can を用いた文の構造を理解している」の評価がA、「疑問詞 when を用いた文の構造を理解している」の評価がBであるとする。この単元においては、前者（助動詞 can を用いた文の構造を理解すること）に指導の重点を置いていることから、前者の評価に重みを置き、「A」と総括する。当然、AとBが逆であれば「B」と総括する。

なお、ここでは一例として単元ごとに総括する場合について説明したが、どのタイミングで（どの時期に）総括するかについては他にも様々な工夫が考えられ、例えば学期ごとに総括するなど、学校の実態等によって判断することとなる。また、総括の仕方についても多様な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

6 年間を見通した評価の系統化・重点化

適切に評価するためには、年間の指導計画を基にして、年間の評価計画を年度当初に作成しておくことが効果的である。その際、全ての単元で全ての言語活動について評価するような計画を立てるのではなく、それぞれの単元の目標や内容、学習活動を明確にし、いくつかの観点に焦点を絞って評価するなど、評価の重点化が必要である。同時に、年間を通してみれば、いずれの観点や評価規準、言語活動もバランスよく評価されているように系統的な計画を立てておくように配慮する。

3学年間を通して同一の「評価規準の設定例」を繰り返し活用して単元の評価規準を設定す

ることも考えられるが、その場合、学習段階に応じて評価規準を設定するようにする。関連して、ある課が例えば本事例のようにナイアガラの滝を案内する内容であったとしても、その課の場面に限定した「ナイアガラの滝を案内する」といったことを目標にするのではなく、「町や観光地を口頭で案内する」など、広く別の場面でも使えることを視野に入れて目標を設定しておくことが適切である。

具体的には、以下のような評価計画が考えられる。

(本事例)

第1学年			単元→	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	
関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	聞くこと	言語活動への取組		○							○				
		コミュニケーションの継続			○										
	話すこと	言語活動への取組		○										○	
		コミュニケーションの継続									○				
	読むこと	言語活動への取組				○			○						
		コミュニケーションの継続							○						○
	書くこと	言語活動への取組					○						○		
		コミュニケーションの継続									○				
表 現 の 能 力	話すこと	正確な発話					◎						◎		
		適切な発話		◎										◎	
	読むこと	正確な音読				◎									
		適切な音読								◎					
	書くこと	正確な筆記					◎						◎		
		適切な筆記									◎				
理 解 の 能 力	聞くこと	正確な聞き取り			◎			◎							
		適切な聞き取り		◎						◎					
	読むこと	正確な読み取り				◎		◎							
		適切な読み取り										◎			◎
知理 識解	言語についての知識				L		S	R			L	W	W	W	
	文化についての理解								R						

(注)

- ・各単元において評価の対象とするものに○や◎を付している。◎は、重点的に指導することを示す。
- ・Lは「聞くこと」、Sは「話すこと」、Rは「読むこと」、Wは「書くこと」を、それぞれ指している。

外国語科 事例2
単元名 A Red Ribbon

第3学年「読むこと」

キーワード：
単元における目標及び
評価規準の絞り込み

1 単元の目標

(1) 時間軸に沿って物語のあらすじを読み取る。

(注)

・本単元の指導に当たっての考え方については、次のようにまとめている。

本単元は Program 1 から 3 までを学習した後の復習として設定されている。広島で被爆した少女の実話である。新出の文法事項はなく、One day passed, A few days later, Two days later などの表現を手がかりに、時間軸に沿って展開を読み取らせることができるため、「読むこと」に目標と評価規準を絞り込んだ指導が可能である。

本単元においては、物語のあらすじを読み取る学習を通して、目的に応じて英語を適切に読んで理解することができる力を養う。

2 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
/	/	①時間軸に沿って物語のあらすじを読み取ることができる。	/

(注)

・「読むこと」について、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の観点で評価することも可能であるが、この前後の別の単元においてその部分を評価対象としていることに加え、この事例は一つの観点に特化して評価するという趣旨から、「外国語理解の能力」に絞って評価規準を設定している。

3 指導と評価の計画（6時間）

時間	○ねらい ・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	<p>○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・warm-up として、広島や原爆に関するやりとりをする。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 <p>○時間軸に沿ってあらすじを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文 (Section 1 及び 2) を読む前に、タイトルや挿絵から内容を推測する。 ・本文を黙読し、あらすじのつかみ方として、何が話題で、いつ、どこで、誰が、何をしたのかについて大まかな内容を読み取る。 	ウの①	後日ペーパーテスト

	<ul style="list-style-type: none"> 本文を時の流れに沿ってパート分けする。 時の流れを表す表現を抜き出し、時間軸に沿って少女ルミの様子と筆者の気持ちや行動を、時間軸と内容を併記できるプリント（本単元全体を一覧にできるもので、以下の時間でも使用する）にまとめる。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ○語句の意味を確認し音読する。 ・単語、連語等の意味や発音を確認する。 ・音読練習する（リピート、バズ・リーディング、ペア・リーディング等）。 ・前時に読んだ内容を、時の流れを表す表現を頼りにして、ペアで再話（retelling）する。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ○時間軸に沿ってあらすじを読み取る。 ・教科書本文（Section 3 及び 4）を読む前に、挿絵から内容を推測する。 ・本文を黙読し、いつ、誰が、何をしたのかについて大まかな内容を読み取る。 ・本文を時の流れに沿ってパート分けする。 ・時の流れを表す表現を抜き出し、時間軸に沿ってルミの様子と筆者の気持ちや行動を並べて整理する。 	ウの①	後日ペーパーテスト
4	<ul style="list-style-type: none"> ○語句の意味を確認し音読する。 ・単語、連語等の意味や発音を確認する。 ・音読練習する（リピート、バズ・リーディング、ペア・リーディング等）。 ・前時に読んだ内容を、時の流れを表す表現を頼りにして、ペアで再話（retelling）する。 		
5	<ul style="list-style-type: none"> ○時間軸に沿って別の物語のあらすじを読み取る。 ・教科書本文全体について、挿絵と時の流れを表す表現を頼りにして黙読し、文章全体の内容理解を再確認する。 ・この話を通して伝えたいメッセージを考える。 ・教科書とは別の同じような時間軸で構成された物語文を用いて、あらすじをつかむ練習をする。 ・時の流れを表す表現を頼りにして、時間軸に沿って起こった出来事を整理できたか確認する。 	ウの①	後日ペーパーテスト
6	<p><ペーパーテスト></p> <p>◇時間軸に沿って物語のあらすじを読み取る問題</p>	ウの①	ペーパーテスト

(注)

- ・本計画においては、時間軸に沿ってあらすじを読み取ることについて、
読み取り方を指導する → 読み取りの練習をさせる → ペーパーテストで評価する
という流れになっている。

4 観点別評価の進め方

ウ 外国語理解の能力

○この事例においては、次のような評価規準を設定した。

<評価規準①> 時間軸に沿って物語のあらすじを読み取ることができる。(適切な読み取り)

- ・教科書とは異なる物語を読むペーパーテストにおいて、時の流れを表す表現などを頼

りにしながら全体のあらすじを読み取ることができるかどうかをチェックし、判断する。

この評価規準については、実際の評価方法や「おおむね満足できる」状況（B）と判断した具体例は省略する。

5 評価上の留意点

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」については、複数回の評価を行うことも考えられる。活動内容、話題、場面などにより、できたりできなかつたりする可能性があるからである。関心・意欲・態度や能力の深まり・高まりをみるには、どのような活動内容、話題、場面であっても対応できるかどうかポイントとなる。

そこで本事例の場合、

- ・ペーパーテストでの素材となる物語を、例えば時の流れを表す表現の単純さや複雑さ、時間軸に沿って読む上での難易度などによって2種類用意する。

↓

- ・要求度のより低い方を1回目のテストで、より高い方を2回目のテストで出題し、それぞれあらすじを読み取る問題に取り組ませる。

↓

- ・それぞれのテストにおいて、あらすじを読み取ることができれば○、そうでなければ×とする。

↓

- ・1回目のテストで○、2回目のテストでは×となった場合、「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。2回目のテストでも○であった場合を「十分満足できる」状況（A）と判断する。

といった評価の仕方が考えられる。

外国語科 事例3

単元名 Places to Go, Things to Do

第3学年「書くこと」

キーワード：

技能統合型の活動における評価

1 単元の目標

- (1) まとまりのある文章を読んで、自分の感想を書く。
- (2) 辞書を活用するなどして書く。
- (3) 現在分詞や過去分詞の後置修飾を用いた文の構造を理解する。
- (4) 接触節を用いた文の構造を理解する。

(注)

・本単元の指導に当たっての考え方については、次のようにまとめている。

本単元は、健、ラトナ、久美の3人の中学生が、行ってみたい地域・場所についてそれぞれ発表（簡単なスピーチ）しているという内容である。“Where would you like to go?”と互いに聞きながら、行きたい地域・場所をその理由とともに述べている場面で構成されている。

本単元では、健たちが紹介しているモンゴル、ギアナ高地、韓国について発表した内容について、感想を述べるのに適した内容となっている。そこで、「書くこと」の(ウ)「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。」に関する指導として位置付け、読むことと書くことの技能の統合に焦点を当てた指導を行う。行きたい地域や場所について正しく読み取る段階でとどめずに、心に残る言葉を抜き出しながら感想を述べる方法を学び、話の内容について自分の感想を書くことができる力を養う。

2 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
①辞書を活用するなどして書いている。	①まとまりのある文章を読んで、自分の感想を書くことができる。	/	①現在分詞・過去分詞の後置修飾を用いた文の構造を理解している。 ②接触節を用いた文の構造を理解している。

(注)

・この単元では、「読むこと」と「書くこと」の技能の統合の指導を行うが、目標は感想を書くことであるので、「読むこと」は評価の対象とせず、「書くこと」のみで実施する。

3 指導と評価の計画（6時間）

時間	○ねらい ・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○本単元で身に付ける文の構造や大まかな内容を知る。 ・warm-up として、世界中の文化遺産、自然、人々の生活に関する写真を示し、それぞれどこの地域・場所のことなのかについて述べ合う。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 <p>○本単元で身に付ける文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在分詞や過去分詞の後置修飾や接触節を用いた文の構造を知る。 		
2	<p>○教科書本文 (Section 1) を読み、健のスピーチに対する感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在分詞の後置修飾を用いた文の構造を理解する。 ・現在分詞の後置修飾を用いて、人・物・場所などを説明する練習を行う。 ・教科書本文を通して、健の行きたい地域とその理由について理解する。 ・健のスピーチ原稿を読み、興味を引かれた語句や文を抜き出し、その理由を英語で書く。その際、必要に応じて辞書を活用する。 <p>例)</p> <p><i>ger</i>: I want to stay there, too. horses running in the races: I want to see them.</p>	エの①	後日ペーパーテスト
3	<p>○教科書本文 (Section 2) を読み、ラトナのスピーチに対する感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去分詞の後置修飾を用いた文の構造を理解する。 ・過去分詞の後置修飾を用いて、人・物・場所などを説明する練習を行う。 ・教科書本文を通して、ラトナの行きたい地域とその理由について理解する。 ・ラトナのスピーチ原稿を読み、興味を引かれた語句や文を抜き出し、その理由を英語で書く。その際、必要に応じて辞書を活用する。 <p>例)</p> <p>I want to go to the Guiana Highlands. I am interested in Angel Falls. I want to see the longest waterfall in the world.</p>	エの①	後日ペーパーテスト
4	<p>○3人のスピーチ原稿を読んだ感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接触節を用いた文の構造を理解する。 ・接触節を用いて、人・物・場所などを説明する練習を行う。 ・教科書本文を通して、久美の行きたい場所とその理由について理解する。 ・感想を表す表現を知る。 <p>例)</p> <p>It is really/so interesting/beautiful/nice. I have never seen such a long wall. I am surprised at its size. It is huge.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人のスピーチ原稿を読んだ感想を、必要に応じて辞書を活用しながら英語で書く。 <p>例)</p> <p>The place I like the best is Korea. It is close to Japan. I want to enjoy a <i>samul nori</i> concert, and eat <i>bibimbab</i>.</p>	エの② アの①	後日ペーパーテスト 活動の観察
5	<p>○別の文章を用いて、内容について感想を書く練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の行ってみたい地域や場所について書かれた教科書とは別の文章を読み、その内容について自分の考えとその理由を、必要に応じて辞書を活用しながら 	アの①	活動の観察

	ら英語で書く。		
6	○別の文章について、感想を書く。 ・教科書や第5時の文章とは別の文章を読み、自分の感想をワークシートに英語で書く。	イの①	作文チェック
後日	<ペーパーテスト> ◇現在分詞や過去分詞の後置修飾を用いた文の構造についての理解をみる問題	エの①	ペーパーテスト
	◇接触節を用いた文の構造についての理解をみる問題	エの②	ペーパーテスト

4 観点別評価の進め方

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度

○この事例においては、次のような評価規準を設定した。

<評価規準①> 辞書を活用するなどして書いている。(言語活動への取組)

- ・読んだ文章の内容について自分の感想を書く場面において、辞書を活用するなどして書いているかどうかを観察し、判断する。

イ 外国語表現の能力

○この事例においては、次のような評価規準を設定した。

<評価規準①> まとまりのある文章を読んで、自分の感想を書くことかできる。(適切な筆記)

- ・教科書とは異なる文章を読み、その内容について感想を書くライティング活動において、読んだ内容に基づいて本文中の語句や表現を抜き出し、理由とともに自分の感想を書くことができるかどうかをチェックし、判断する。

エ 言語や文化についての知識・理解

省略する。 ※「事例1」参照

ア・イそれぞれの評価規準について、具体的な評価方法の例を以下に示す。

アの① 辞書を活用するなどして書いている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(1) 評価方法

第4時の「3人のスピーチ原稿を読んだ感想を書く」活動と、第5時の「別の文章を用いて、内容について感想を書く練習をする」活動において、それぞれ観察を行う。

(2) 評価の決定

- ・活動への取組の様子を観察し、

〔辞書を活用するなどしながら書いている場合、○
〔書くことに取り組めていない場合、×
と判断した。

- ・2回の評価結果について、第4時に比べて第5時ではより発展的な内容のタスクに取り組んでいることを考慮し、

〔第4時では○、第5時では×の場合、「おおむね満足できる」状況 (B)
〔第4時では○、第5時でも○の場合、「十分満足できる」状況 (A)
〔第4時・第5時とも×の場合、「努力を要する」状況 (C)
とそれぞれ判断した。

【留意点】

- ・なお、「辞書を活用するなどして書いている」とは、活動への積極的な取組を評価しようとするものであり、単純に辞書の活用の有無だけをみるのではない。したがって、辞書は活用していないが積極的に書いている姿が観察される生徒の場合、○と判断する。

(3) 「C」と判断した生徒に対しての手立て

どの箇所が印象に残ったのか、その箇所についてどのように感じたのか、また、それはどうしてなのかを個別に確認し、どのように書けばよいのかを具体的に助言した上で、書くことに取り組むように指導した。

イの① まとまりのある文章を読んで、自分の感想を書くことかできる。(外国語表現の能力)

(1) 評価方法

別の文章を読んで感想を書いたワークシートをチェックする。

※評価の手順：

- ① 「文章を読んで感想を書く」というライティング活動を、教科書や第5時のものとは別の文章について第6時に設定する。
- ② 感想を記入するワークシートを配布し、感想を書かせる。
- ③ 授業後、ワークシートを回収し、評価を行う。

=問題文= (教師が書き下ろしたものを想定)

The place I want to visit is Australia. There are many things I want to do there. First, I am interested in scuba diving in the beautiful sea. I want to see colorful fish swimming in the water. Second, I want to visit Uluru, Ayers Rock. That is one big rock. It is about 350 meters high. It is a very important place for the Aborigines. So I just want to see it.

(2) 評価の決定

「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した具体例

Mr. A write about 350 meters high. I am surprised at its size. It is high than Tokyo Tower. Wonderful.

⇒文法的に適切でない表現 (___部など) があり、理由を示す接続詞表現も使われていないが、本文中の語句や表現 (about 350 meters high) を抜き出しており、理由 (It is high than Tokyo Tower.) とともに感想 (I am surprised at its size.) を書いていることから、「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した。

「十分満足できる」状況 (A) と判断した具体例

Mr. A wrote, "I want to see colorful fish swimming in the water." I want to dive in the Australian sea to watch colorful fish too. Australia is famous for its Great Barrier Reef. It is very beautiful. So it is wonderful to see colorful fish in the beautiful sea.

⇒本文中の語句や表現 (I want to see colorful fish swimming in the water.) を抜き出しており、理由とともに感想 (I want to dive in the Australian sea to watch colorful fish too. So it is wonderful to see colorful fish in the beautiful sea.) を書いていることに加え、to 不定詞や It is ~ to の文構造など、英語表現としての正確さが認められる。さらに、so を用いて文と文のつながりも工夫している。既習の英語を正しく用いて表現するとともに、全体としてまとまりのある内容で感想を書いていることから、「十分満足できる」状況 (A) と判断した。

「努力を要する」状況 (C) と判断した具体例

It is one big rock.

⇒本文中の語句や表現 (It is one big rock.) を抜き出してはいるが、自分の感想を書くことができていることから、「努力を要する」状況 (C) と判断した。

(3) 「C」と判断した生徒に対しての手立て

ワークシートを返却する時に、どの箇所が印象に残ったのか、その箇所についてどのように感じたのか、また、それはどうしてなのかといったことを個別に確認し、本単元で扱った表現などを振り返らせつつ、どのように書けばよいのか具体的に助言した。

外国語科 事例 4

単元名 世界遺産、日本のマンガ・アニメ・映画

第2学年「話すこと」

キーワード：

複数の単元にわたる評価

文化についての理解の評価

1 単元の目標

【世界遺産】

- (1) 比較表現の知識を活用して正しく口頭で発表する。 (両単元共通)
- (2) 大きさや長さを正しく読み取る。
- (3) 比較表現を用いた文の構造を理解する。 (両単元共通)

【日本のマンガ・アニメ・映画】

- (1) 比較表現の知識を活用して正しく口頭で発表する。 (両単元共通)
- (2) つながる音を正しく聞き取る。
- (3) 比較表現を用いた文の構造を理解する。 (両単元共通)
- (4) 電子メールの書き方について理解する。

(注)

・本単元の指導に当たっての考え方については、次のようにまとめている。

本単元では、「世界遺産」と「日本のマンガ・アニメ・映画」とを連続して扱うこととしている。

最初の「世界遺産」は、英会話部に所属する俊，ミヒ，ジムが、世界遺産についてそれぞれが調べたことを発表するという内容である。発表の中で **larger than** や **widest** などの比較級や最上級とともに、**2,700 meters wide, for a long time** など大きさや長さを表す表現が多数使われている。それらの表現を正しく読み取る力を付けるのに適した題材である。

続く「日本のマンガ・アニメ・映画」は、ドイツにいる友人アンナから送られてきた電子メールの内容を基に、アキ，ジムそしてバック先生が、日本のアニメや映画について話をするという内容である。対話の部分では、**thought of, more about** など音のつながりが見られるので、それを聞き取る力を付ける指導を行う。さらにこの単元では、電子メールの書き方を学ばせることができる。

これらの単元で扱う比較表現に関しては、幅広い表現方法があり、日常生活の中でよく使われるため、使い方を十分練習させ、定着を図る必要がある。そこで、二つの単元にわたって連続的・系統的に指導することで時間を確保し、比較表現を用いて口頭で表現することができる力を養う。

2 単元の評価規準

【世界遺産】

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
/	①比較表現の知識を活用して正しく口頭で発表することができる。	①大きさや長さを正しく読み取ることができる。	①比較表現を用いた文の構造を理解している。

【日本のマンガ・アニメ・映画】

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	①比較表現の知識を活用して正しく口頭で発表することができる。	①つながる音を正しく聞き取ることができる。	①比較表現を用いた文の構造を理解している。 ②電子メールの書き方について理解している。

(注)

- ・ゴシック体は、両単元に共通する評価規準であることを示している。

3 指導と評価の計画（12時間）

【世界遺産】

時間	○ねらい ・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・比較表現の大切さについて知る。 ・世界遺産について知っていることを述べ合う。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ○比較級を理解する。 ・形容詞の比較級の表現の仕方を知る。	エの①	後日ペーパーテスト
2	○形容詞の比較級を用いた文の構造を確認する。 ・形容詞の比較級を用いた文の構造を知る。 ・教科書本文を通して、比較級の使い方を理解する。 ・教科書本文から、大きさや長さを表している表現を探す。 ・形容詞の比較級を用いた文を使えるように練習する。その際、何かと比較して大きさを表す表現を加える。	エの①	後日ペーパーテスト
3	○形容詞の最上級を用いた文の構造を理解する。 ・形容詞の最上級を用いた文の構造を知る。 ・教科書本文を通して、最上級の使い方を理解する。 ・教科書本文から、大きさや長さを表している表現を探す。 ・形容詞の最上級を用いた文を使えるように練習する。その際、何かと比較して大きさや長さを表す表現を加える。	エの①	後日ペーパーテスト
4	○大きさや長さを表す表現を理解する。 ・教科書本文を通して、比較級や最上級の使い方を確認する。 ・教科書本文から、大きさや長さを表している表現を探す。 ・大きさや長さを表す表現をまとめる。 ・ものや場所などを対象として、大きさや長さを表現する練習をする。その際、比較級や最上級を用いた文を加える。		
5	○形容詞の比較級や最上級を用いて、身の回りのものを表現する練習をする。 ○大きさや長さを読み取る。		

<ul style="list-style-type: none"> ・大きさや長さを表す文を読む。 ・形容詞の比較級や最上級を含むダイアログのパターン ・プラクティスにペアで取り組む。 ・身の回りのものを比較した英文を書き，ペアになって発表し合う。 	ウの①	ペーパーテスト
---	-----	---------

【日本のマンガ・アニメ・映画】

時間	○ねらい ・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	<p>○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなマンガや映画を発表し合う。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 <p>-----</p> <p>○同等比較を用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同等比較の表現の仕方を知る。 ・同等比較を用いた文を使えるように練習する。 	エの①	後日ペーパーテスト
2	<p>○電子メールの書き方について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文を通して，同等比較の使い方を確認する。 ・メールの英文を聞いて，どの語とどの語がつながるかを聞き分ける。 ・アンナのメールを見ながら，メールの書き方やメールで用いられる表現を理解する。 ・簡単なメールを書く練習をする。 	エの① エの②	後日ペーパーテスト 後日ペーパーテスト
3	<p>○副詞の比較級や最上級を用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副詞の比較級や最上級を用いた文の構造を知る。 ・教科書本文を通して，比較級や最上級の使い方を理解する。 ・3人の対話を聞いて，どの語とどの語がつながるかを聞き分ける。 ・つながる音の発音練習をする。 ・二つ又は三つ以上の動作や行動を比べて，「より～に」「一番～に」と表現する練習をする。 	エの①	後日ペーパーテスト
4	<p>○接続詞ifを用いた文の構造を理解する。</p> <p>○つながる音を正しく聞き取る練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続詞ifを用いた文の構造を知る。 ・教科書本文を通して，ifを用いた文の使い方を理解する。 ・3人の対話を聞いて，どの語とどの語がつながるかを聞き分ける。 ・つながる音の発音練習と聞き取り練習をする。その際，比較級や最上級を用いた文を加える。 	ウの①	後日聞き取りテスト
5	<p>○つながる音を正しく聞き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音のつながりに注意して，教科書本文の音読をする。 ・音のつながりを含むパッセージを聞いて，内容を聞き取る。 ・好きなアニメや映画，観光地などについてインタビューするための質問項目を考える（比較表現を含める）。 	ウの①	聞き取りテスト

【まとめ】

時間	○ねらい ・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○比較表現を用いて口頭で発表する練習をする。 ・前時に作成した質問項目を用いて、好きなアニメや映画と好きな観光地について2人にインタビューする。 ・インタビューしながらメモをとる。 ・インタビューした結果をレポートとして口頭で発表する練習をする。その際、つながる音に注意する。		
2	○比較表現の知識を活用して、調べたことを発表する。 ・友人の好きなアニメや映画と好きな観光地についてのレポートを発表する。	イの①	発表チェック
後日	<ペーパーテスト> ◇比較表現を用いた文の構造についての理解をみる問題 ◇電子メールの書き方についての理解をみる問題	エの① エの②	ペーパーテスト ペーパーテスト

(注)

- ・本計画においては、単元の目標でもある「大きさや長さを正しく読み取る」こと及び「つながる音を正しく聞き取る」ことについて、
読み取り方や聞き取り方を指導する → 読み取りや聞き取りの練習をさせる → ペーパーテストや聞き取りテストで評価する
という流れになっている。
- ・両単元に共通する目標である「比較表現の知識を活用して正しく口頭で発表する」及び「比較表現を用いた文の構造を理解する」については、両単元全体を通じて、
表現について指導する → 表現を使う練習をさせる → 発表やペーパーテストで評価する
という流れになっている。

4 観点別評価の進め方

ここでは、イの①及びエの②について説明する。

イ 外国語表現の能力

○この事例においては、次のような評価規準を設定した。

<評価規準①> 比較表現の知識を活用して正しく口頭で発表することができる。(正確な発話)

- ・インタビューした結果をレポートとして口頭で発表する活動において、比較表現を正しい形、正しい位置で用いて表現することができるかどうかを評価する。

エ 言語や文化についての知識・理解

○この事例においては、次のような評価規準を設定した。

<評価規準②> 電子メールの書き方について理解している。(文化についての理解)

- ・件名、宛名、本文、差出人の必要情報を盛り込むという電子メールのフォーマットに関する知識を身に付けているかどうかを評価する。

※ここで評価対象とする「文化についての理解」は、コミュニケーションを円滑にするための背景的知識としての文化理解であり、この知識をもっていることにより、コミュニケーションにおいて生じやすい誤解などを最小限におさえることができる点、つまり、この知識を身に付けることでコミュニケーション能力が高まるという点に留意する必要がある。

イ・エそれぞれの評価規準について、具体的な評価方法の例を以下に示す。

イの① 比較表現の知識を活用して正しく口頭で発表することができる。(外国語表現の能力)

(1) 評価方法

口頭でのレポート発表の内容をチェックする。

※評価の手順：

①前時において2人の友人にインタビューした際のメモを活用しながら、友人の好きなアニメや映画、好きな観光地についてのレポート発表を行うよう指示する。その際、これまで学習してきた比較表現を活用しながら、4文以上の英語を用いることを条件とする。

②生徒の発表を観察しながら、評価する。

(2) 評価の決定

<友人の好きな映画やアニメをレポートした例>

「おおむね満足できる」状況(B)と判断した具体例

Hiroki likes "One Piece" the best of all anime. Hiroki's favorite character is Luffy.

Luffy is stronger than other character. Zoro is the coolest.

⇒発話量、文相互の関連性、代名詞の置き換えなどの点で、習熟に向けて練習の余地が感じられるものの、形・位置のいずれにおいても正しく比較表現を用いていることはできている(____部)ため、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例

Aoi watched Avatar last year. She liked the movie very much and she even bought a DVD. She thinks Avatar is more wonderful than any other movie. Now, many people like Avatar the best and it is the most popular movie in the world.

⇒形・位置のいずれにおいても正しく比較表現を用いていることに加え、音声表現にも問題がなく、つなぎ言葉(now)を使ったり、代名詞などによる言い換えの手法を用いたりしながら(____部)、まとまった内容を発表できているため、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

「努力を要する」状況(C)と判断した具体例

Mai likes Harry Potter movies. Harry Potter is exciting all the movies. Mai likes Ron than Harry. Ron is cute than Harry.

⇒形・位置のいずれにおいても正しく比較表現を用いていないため、「努力を要する」状況(C)と判断した。

<友人の好きな観光地をレポートした例>

「おおむね満足できる」状況(B)と判断した具体例

Takaya went to Odaiba. Takaya enjoyed stay there. He told about Rainbow Bridge. Rainbow Bridge is shorter than Yokohama Bay Bridge. He likes Rainbow Bridge the best. He loves Tokyo.

⇒文相互の関連性や代名詞の置き換えなどの点で、習熟に向けて練習の余地が感じられるものの、形・位置のいずれにおいても正しく比較表現を用いることはできている(____部)ため、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例

Mioka loves animals. She went to Asahiyama Zoo in Hokkaido this summer with her family. It is smaller than Ueno Zoo in Tokyo. But she liked Asahiyama Zoo better because she could stand near the animals and see them more easily. She loved rabbits the best!

⇒形・位置のいずれにおいても正しく比較表現を用いていることに加え、音声表現にも問題がなく、代名詞を用いたり、but や because などの接続詞を使って文の順序に注意を払ったりしながら(____部)、全体として内容に一貫性のある発表ができているため、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

「努力を要する」状況(C)と判断した具体例

Manami went Disneyland. She likes Mickey Mouse. Pluto is a pet. Pluto is smart than Goofy. Minnie is most cute all. She visits Disneyland in summer.

⇒形・位置のいずれにおいても正しく比較表現を用いていないため、「努力を要する」状況(C)と判断した。

(3) 「C」と判断した生徒に対しての手立て

発表の様子をビデオカメラ等で記録しておき、その映像を通して発表内容をフィードバックする。その際、どのような文が発信できるようになればよいのかを具体的に助言し、指導した。

エの② 電子メールの書き方について理解している。(文化についての理解)

(1) 評価方法

ペーパーテストで電子メールのフォーマットについての理解度をチェックする。

※評価の手順：

本単元の学習を終えた後、後日、以下のようなペーパーテストを実施する。

問 次の①～③の条件に合うように、英語の電子メールを完成させなさい。

- ①あなたが友人の Tom に宛てて書いたものであることが分かるようにする。
- ②件名は「私の誕生パーティーへのお誘い」という内容とする。
- ③メールの本文については、次の英文をそのまま書き写す。

My family will have a birthday party for me next Sunday. It will start at 12:30 p.m. Can you join us?

I'm looking forward to your answer.

(解答用紙)

Subject:

(2) 評価の決定

「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した具体例

Subject: Invite my birthday party

Tom

My family will have a birthday party for me next Sanday.

It will start at 12:30 p.m.

Can you join us.

I looking forward to your answer.

Kenta

⇒件名の英語表現や差出人の示し方、本文の書写などにおいて不正確さや不十分さがあるものの、件名・宛名・本文・差出人の書き方については基本的に理解していることが認められることから、「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した。

【留意点】

- ・単元で学習した電子メールのフォーマットを理解しているかどうかを問うものであるため、件名、宛名、本文、差出人の書き方のみを評価し、英語としての正しさ等、ターゲット以外の誤りについてはここでの評価の対象としない。

2 言語活動の充実に関する指導事例集

～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～

平成 23 年 5 月

文部科学省

外国語－１（第１学年） スピーチの概要や要点を聞き取る事例
【学習活動の概要】

1 単元名 「Unit 6 グリーン家の人々 / Listening Plus 2 友達のプロフィール」

2 単元の目標

- 理解できないところがあっても、推測したり、聞き返したりして聞き続ける。
- 三人称単数現在形を用いて家族や友だちのことを紹介する。
- 友人や教師を紹介するスピーチを聞いて、内容を正しく理解する。
- 三人称単数現在形の形・意味・用法を理解する。

3 評価規準

- 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
 - ・理解できないところがあっても、推測したり、聞き返したりして聞き続けている。
- 【外国語表現の能力】
 - ・三人称単数現在形を用いて家族や友だちのことを紹介することができる。
- 【外国語理解の能力】
 - ・友人や教師を紹介するスピーチを聞いて、内容を正しく理解することができる。
- 【言語や文化についての知識・理解】
 - ・三人称単数現在形の形・意味・用法を理解している。

4 教材

本単元は、カナダ人のグリーン先生との交流を通して、日本とカナダの文化・生活習慣などにも関心を持ち、「国際語」としての英語の役割に気付かせる内容である。言語材料として三人称単数現在形を扱うことから、クイズ形式で発表された家族や友人の人物紹介文を聞き取ることを中心とした言語活動を通して、まとまった内容の概要や要点を聞き取る力を養う。

5 主な学習活動

(1)単元の展開（全8時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (1)	<u>Unit 6 グリーン家の人々</u> Multi Plus 1 で作成した自己紹介文のスピーチを毎授業5人ずつ発表し聞き取る。	・発表する前には自然な口調で発表できるように練習する時間を確保する。
第二次 (3)	<u>まとめと練習</u> 自己紹介スピーチで聞き取った内容を記したメモを基に、人物紹介文を作成する。	・紹介するポイントを明示し、まとまりのある文章を書けるように支援する。
第三次 (3) 本時	<u>Listening Plus 2 友達のプロフィール</u> クイズ形式で発表された人物紹介文をワークシートを手掛かりに聞き取り、誰の紹介か推測する。	・自然な口調の英語を聞けるように、出題者は事前に発表内容を十分に練習するようにさせる。
第四次 (1)	<u>単元のまとめ</u> 学習内容の定着度を確認する。	

(2)本時の学習（6/8時間）

目標：人物紹介のスピーチを聞き取る。

展開：

- ①教科書にある自己紹介文を聞いて内容を理解する。
- ②前時に作成した人物紹介の文をグループ内で相互に発表し、聞き取る。
- ③紹介文をグループ内で推敲し、クラス全体で発表する。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くことの (イ)「自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。」及び (オ)「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。」の指導事項に関わる事例である。

○(イ)に関して

生徒のスピーチや生徒同士の対話活動で話される英語について、生徒自らが自然な口調で話すように努めることで、自然な口調の英語を耳にすることに慣れ親しみ、「聞く力」が高まることが期待できる。

この単元では、練習する時間を十分に確保し、繰り返しその英語に触れる機会を増やすために、Listening Plus 2 に先行して Unit 6 の冒頭から 5 人ずつ自己紹介スピーチをする。発表の順番が示されているので、生徒は授業前に十分な練習を積むことができる。正しい強勢・イントネーション・区切り・適切な速さ等、自然な口調の目安を与えることで、生徒は目標をもって取り組むことができる。スピーチを聞く生徒にとっても、より自然な口調の英語による自己紹介を毎授業で繰り返し聞くことになるため、聞き取る力の向上につながる。

○(オ)に関して

この内容を指導するためには、生徒が内容的にまとまりのある英語を数多く話す場面を設定し、同時に生徒がその英語をじっくりと聞き取り評価する活動につなげることが大切である。そのためには、段階を踏んで計画的に準備を進める必要がある。

この単元では、既習単元で学習した自己紹介の仕方を Multi Plus 1 において生徒が自己表現し、Unit 6 において実際にスピーチを行った。自己紹介で使われる語彙も学習進度に併せて繰り返し学習するので習熟し、多くの生徒が発音や意味を理解することに対する抵抗が少なくなってきた。この「自己紹介」スピーチを Unit 6 冒頭から繰り返して行い、それを聞いている生徒は、話の概要や要点を聞き取るために、発表スピーチから得た情報を記録用紙にメモをとるようにする。全員のスピーチ発表後、そのスピーチの概要や要点をメモした記録用紙を基に、人物紹介のスピーチを作成し、クイズ形式で発表する。生徒は自然な口調で話された紹介文を正確に聞き取り、誰の紹介であるかを予想する。

【言語活動の充実の工夫】

言語活動を充実させるために、以下の 3 点に留意して授業を展開した。

(1) 「聞く」言語活動を展開するに当たって

「何のために聞くのか」という本活動の目的を生徒に示した。本時の授業では、「人物当てクイズ」で出題者の英文を聞いて、特徴を聞き取り、正答を考える。そのためには、友だちが話す英文を正確に聞き取り、普段接している身近な友だちのことを考え、ヒントとなる事柄（まとまりのある英文）と比べ合わせ、答えを導き出す。聞く目的や聞き取るべき対象が明確になることで、生徒たちは「聞くこと」に集中して取り組めた。

さらに、グループ対抗というゲーム的な要素を活動に取り入れることで、より集中して聞き取ることができた。これは、同じテーマであるために、似通った内容の英文を何度も聞くことになって生じがちな冗長感を軽減することに役立った。授業後には、「先生、続き、またよろうよ」という声が多く聞かれた。人物紹介というテーマで、一定の量と質の英文を楽しみながら聞き取る活動を繰り返すことによって、まとまりのある英文を聞き取ることに慣れさせることができた。

(2) 聞くための手掛かりを与えるワークシートの作成

聞く活動では、生徒が、何が聞き取れて何が聞き取れていないのかを判断するのは困難である。そこで、聞き取りが苦手な生徒には、聞き取りのポイントを明記したワークシートを作り、聞く上での手掛かりを与えた。本時の授業では、「誕生日」「出身小学校」「趣味」「特技」「その他」と記入された項目欄を作り、聞く時のポイントがわかるようにした。

(3) 協力して学習し、聞く力を高め合う場面の設定

自然な口調で話される英語を聞く場合、そのような英語を聞き慣れていない生徒は、自信をもてない場合が多い。そこで、学級全体での発表の前に、4 人グループで友達紹介をして、互いに聞き合う場を設定した。その際、発表が聞き取れない時には、発表の途中であってもスピーチを止めて、聞き取れなかった単語の意味を確認したり、聞き取れなかった部分を繰り返し発表してもらったりして、聞き取りに自信をもてるようになるまで助け合うようにした。その結果、全体の前でのクイズ発表の聞き取りでは、自然な口調の英語であっても戸惑うことが少なくなり、自信をもって聞く活動に取り組むことができた。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：② （※分類番号はP5表参照）

【学習活動の概要】

1 単元名 「Program 1～4 英語で自分のことを伝えよう」

2 単元の目標

自分のことや身近な人，日常生活や身の回りのことについて英語で表現する。

3 評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

・会話の場面では，聞き手に十分に伝わる音量で発話している。

【外国語表現の能力】

・自分のことや身近な人について口頭で紹介することができる。

・日常生活や身の回りのことについて口頭で説明することができる。

【外国語理解の能力】

・他者の自己紹介を聞いたり読んだりして，その内容を理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

・be 動詞や一般動詞の使い方を理解している。

4 教材

本単元は，自己紹介や教室での会話など，日常生活でのコミュニケーションの場面と会話を中心に構成されている。自分と身近な人や物について英語で表現できるようになることをねらいとして，be 動詞を使った一人称の表現に始まり，二人称・三人称の表現，一般動詞へと段階的に導入していく。実践的コミュニケーションの場面を多く設定し，学習したことを活用して表現させる活動を通して「思考・判断・表現」する力を育成する。

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全20時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (4)	・be 動詞（am, are）を使った簡単な自己紹介と質疑応答	仲間と協力しながら，より良い表現活動ができるように，積極的にコミュニケーションを図らせる。
第二次 (6) 本時	・be 動詞（is）を使った家族紹介（Show & Tell）	今まで学習したことを生かし，自分のことについて英語で表現できるようにさせる。
第三次 (5)	・一般動詞（play, study, like 等）を使った日常生活の説明・質疑応答	他者の自己紹介を聞いたり読んだりして，その内容を理解できるようにさせる。
第四次 (5)	・一般動詞（have 等）と複数形を使った身の回りのことの説明・質疑応答	今まで学習した文法と語彙を身に付け，適切に使わせる。

(2) 本時の学習（2/6時間）

目標：学習したことを生かして，聞き手に正しく伝わるように表現する。

展開：

- ① 第三者について説明する表現を理解する。
- ② 聞き手に伝わりやすい説明の仕方を理解する。
- ③ 学習を振り返り，自己評価する。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2 内容 (1) 言語活動 「イ 話すこと」 (イ) 「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」を取り上げて指導するものである。

学習指導要領解説では、この指導事項について、「適切な声量で明瞭に話すなど聞き手を意識し、的確な英語を使って、大切なところは強調して話したり、聞き手が分かりにくいところは繰り返したり他の表現で言い直したりなど」することで「聞き手に正しく伝える」ことを示した活動であるとしている。

本単元は、日常生活でのコミュニケーションの場面を取り入れることにより、そのような相手意識を持った言語活動を指導するものである。

【言語活動の充実の工夫】

第三者を紹介する表現方法について学習することで、身の回りの出来事や自分の興味に関する内容を英語で表現できるようになってくる。この時期では、自分が伝えたい内容を英語で考え、英語で伝える活動を継続的に行うことで、即興での「話す力」を徐々に育成することが大切である。

そこで、言語活動を充実させる工夫の一つとして、本単元では2時間の計画で Show & Tell 活動（ある物について実物を見せながら話をする活動）を取り扱うこととした。活動を行う上でのポイントは次のとおりである。

- ・本時の Show & Tell は、実践的なコミュニケーション能力を育てるために、英文原稿は用意させず、ワークシートを参考に口頭練習させ、即興的に紹介させた。
- ・紹介する人物について伝えたいことを、既習事項を駆使して表現するよう促し、各自が「思考・判断」する場面を設定した。また、本時の目標文である He/She is ～ を基本としつつも、知っている表現があれば使ってもよいものとし（例：He/She likes ～）、目標文以外の細かい間違いの訂正は控えて、なんとかして表現したいと思う意欲を大切にしたい。
- ・Show & Tell による報告活動により、相手に理解されなければ伝えたいことにならないことに気付かせ、聞き手に正しく伝えるための表現の仕方を模索させる。それにより、単に自分が伝えたいことを話すという一方向的な紹介から、聞き手の立場に立った紹介のあり方について意識を高めることにつなげた。

この Show & Tell 以外にも、学習したことを生かして、聞き手に正しく伝わるように表現することができるよう、次のような点で言語活動の充実を図っている。

- ペアやグループでの対話や音声を重視した指導を行う。
本校の生徒は、英語の音やリズムに慣れる指導を小学校で受けており、音感が鋭く英語を話すことへの抵抗感が少ない。その特長を生かし、初歩的な「知識・技能」や学習したことを駆使して積極的にコミュニケーションを図り、意欲的に表現の幅を広げ、より良い表現を目指していこうとする姿勢を育てていく。
- 生徒にとってより現実的で身近な話題や場面の設定する。
言葉以外の要因（ジェスチャー、表情等）を駆使しながら、聞き手を意識したコミュニケーションを促す。
- 普段から実際の日常会話の場面を設定し、原稿を用意させず即興で話させる。
- 仲間同士での関わり合いを通して互いに高め合う（磨き合う）場面を積極的に取り入れる。
生徒同士で互いのスピーチを聞く活動を取り入れ、聞き手にとってよりよいスピーチとはどういうものか、自分たちの力で気付き表現力を高め合う、生徒同士の磨き合いを意識した授業づくりを行う。また、他者の発表の良いところや自分の課題に気付かせ、相手によりわかりやすく伝える表現の仕方を自分なりに考えさせる。
- 会話の自由度を増したり、内容・活動形態に工夫をすることで学びたい事柄を「自然に繰り返させる」ことを意識した指導を行う。
- 教師が意図的かつ積極的に言葉かけをする。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：① （※分類番号はP5表参照）

外国語－3（第1学年） 他人を紹介するスピーチの原稿を書く事例
【学習活動の概要】

1 単元名 「In Your Words ○○さんを紹介しよう」

2 単元の目標

- 家族や友達、部活動の先輩、あこがれの人などを紹介する文章を書く。
- 書いた文章を基に当該人物を紹介するスピーチを行う。

3 評価規準

- 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。
- 【外国語表現の能力】
- ・内容的にまとまりのある文章を書くことができる。
 - ・与えられたテーマについて自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。
- 【言語や文化についての知識・理解】
- ・正しい語順や語法を用いてスピーチ文を構成する知識を身に付けている。

4 教材

本単元は、家族や友達、部活動の先輩、あこがれの人などを紹介する文章を書かせ、その文章を基に当該人物を紹介するスピーチを行うという内容である。第三者の紹介は、日常生活において実際に行われることが多く、実用性が高いものである。したがって、第三者を紹介する時に必要な表現やその使い方を学び、実際に英語で第三者の紹介ができる力を養う。

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全4時間）

時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一時	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介に必要な新出語（句）を学習する。 ・紹介人物のプロフィールを作成する。 ・過去のスピーチ原稿例を読み、文と文のつなげ方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介に必要な情報は何か考えさせる。 ・具体例を挙げ、文と文のつなげ方に着目させる。
第二時 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・プロフィールを基に、スピーチ原稿を作成する。 ・添削を受ける。 ・必要に応じて原稿を修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どういう組立てで文章を構成したらよいか考えさせながら原稿を書かせる。 ・修正の必要性を理解させる。
第三時	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿を完成する。 ・原稿を暗記して、スピーチの練習をする。 ・ペアでお互いにスピーチを聴き合う。 ・ペアからの意見を参考に再度練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって発表できるように繰り返し練習させる。 ・人の意見を参考に、よりよい発表ができるよう工夫させる。
第四時	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1分以内で人物の紹介スピーチを行う。（絵や写真も使用） ・発表者のスピーチを聴いて、内容や発表に関する簡単な評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・visual aidsも使用しながら、わかりやすく発表することを心がけさせる。 ・人の発表をよく聴かせる。

(2) 本時の学習（2/4時間）

目標：前時の学習で作成したプロフィールを利用して実際のスピーチ原稿を作成する。
展開：

- ①生徒が原稿作成中、机間指導しながらよい例や改善の必要な例を収集し、各自の原稿の推敲に役立つよう、電子黒板を利用して生徒に提示、指導する。
- ②原稿を各自で推敲させ、さらにペアワークを通して互いに気付いた点を指摘させる。
- ③ALTとともに添削し、清書をして発表原稿を完成させる。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

本指導事例は、学習指導要領 2 内容 (1) 言語活動 エ 書くことの(ア)(イ)(ウ)の指導事項に関連する内容となっている。

まず、スピーチの原稿を書くことで、必然的に(ア)「文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。」が求められる。また、発表だけでなく、原稿自体も「外国語表現の能力」として評価の対象としていることから、正しく書くことは大切である。

次に、内容を正しく伝えるには、(イ)「語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。」も必要である。これは、英語の場合、誤った語順で構成された文では、読み手や聞き手に正しく内容を伝えることができないことが多いからである。本事例では、原稿を書き終えた時点で、ALTに文章を添削してもらおう活動や、ペアの相手に発表内容を聞いてもらう活動も取り入れているが、指導者や他の学習者からチェックを受ける前に、学習者自身が自分で推敲できる力を養うことも大切だと考える。

さらに、(ウ)「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。」とも密接に関連する。人を紹介するには、その人物の特徴や自分との関係など、比較的多くの情報を読み手や聞き手に伝える必要がある。そのためには、複数の文で文章を構成しなければならない。したがって、最初にどのような文で書き始め、どのように文をつなげ、いかに締めくくるといった、文章を構成する力が大切になる。言語的には、必要に応じて、接続詞や副詞なども使って、順序、つながり、論理などを明確にすることも求められる。また、何度も同じ表現を使うことを避けたり、文と文のつながりを保つために、代名詞などを使って語を置き換えたり、他の名詞で表現したりすることも、この単元での指導事項である。

【言語活動の充実の工夫】

本時では、本時の目標を実現するために、以下の4点で言語活動を工夫・充実している。

- 原稿を書き始める前に、紹介する人物のプロフィールを作成して、どのような内容を紹介するか具体的に列挙する活動を取り入れた。いきなり原稿を書き始めると、文を正しく書くこと、文と文の順序を考えること、どのような事柄を紹介するかという内容に関する事柄を同時進行させながら書かなくてはならない。このような負荷を軽減させるために、原稿の前段階として、簡条書きでプロフィールを作成することにした。
- 紹介する内容や、文と文のつなげ方に着目させるために、過去のスピーチ原稿を分析する時間を確保した。これは、何も無いところから原稿を考えさせるのではなく、モデルを与えることによって、「文章を書く」という言語活動に関わる学習者の負荷を少しでも軽減できるためである。また、分析の後、気付いた点について生徒から発表を求めたり、指導者が具体例を挙げるなどして確認したりすると、学習者全員で大切な情報や注意点を共有することができ、一層効果的である。
- 指導者の指導だけでなく、学習者同士の相互確認という活動を取り入れた。会話などの即興性の高い言語活動と異なり、スピーチでは、原稿を推敲したり、発表を練習したりすることができる。そのため、自分の原稿をまず自分で推敲し、次に学習者同士で、改善した方がよいと思われる点について、アイデアを出し合い、最後に指導者のチェックを受けるという3段階の推敲を行った。このような段階を経ることにより、正しい文を書いたり、より適切な形で文と文をつなげることができるようになる。また、ともすると「書くこと」の言語活動は、学習者が一人でずっと考えるという活動になりがちである。しかし、このような学習者同士の相互確認という活動を取り入れることにより、学習にめりはりがつき、協力や気付きなどが生まれ、思考・判断を養う上で大切なステップになると同時に授業が活性化することも期待できる。
- 原稿の作成中、指導者が電子黒板を使って、参考例や誤りやすい点などを具体的に提示した。電子黒板の特性上、生徒のノートを拡大して提示できるので、生徒は原稿作成中にも、必要に応じて文章を修正したり、誤りを減らしたりすることができる。このように、電子黒板の使用は表現を見直すという点でたいへん有効である。なお、この場面においては、「うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。」の評価規準に照らし、コミュニケーションへの関心・意欲・態度を活動の観察によって評価する。そういった意味で、「書くこと」に対して生徒が意欲的に取り組むことができるような工夫にもなっている。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：② (※分類番号はP5表参照)

1 単元名 「Lesson 4 Halloween」		
2 単元の目標		
<ul style="list-style-type: none"> ○ ハロウィンと日本の祭りとを比較しながら，ALTに口頭で説明する。 ○ ハロウィンに関する英文を聞いたり，読んだりして要点を理解する。 ○ ペアやグループ活動において間違いを恐れず話す。 ○ look, sound を用いた文の意味・用法を理解する。 		
3 評価規準		
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】		
・ペアやグループ活動において間違いを恐れず自分の考えなどを話している。		
【表現の能力】		
・ハロウィンや日本の祭りについて口頭で説明することができる。		
【理解の能力】		
・ハロウィンに関する英文を聞いて，要点を適切に聞き取ることができる。		
・ハロウィンに関する英文を読んで，要点を適切に読み取ることができる。		
【言語や文化についての知識・理解】		
・人や物について感想を述べる look, sound を用いた文の意味・用法を理解している。		
4 教材		
<p>Lesson 4では，アメリカの伝統文化であるハロウィンが題材となっている。このため，日本との文化的な相違点に注目し，生徒の意見や考えを述べる活動を設定することにより，自国や他国の文化理解にもつなげることができる。</p> <p>まず，こうした活動を支えるものとして，新出表現を用いて単文レベルで正しく話したり，具体的な使用場面に応じて適切に話したりすることができる力を身に付けさせる。そして，単元のゴールでは，新出表現を実際に活用してハロウィンと日本の祭りについてALTに口頭で説明できる力を養う。</p>		
5 主な学習活動		
(1) 単元の展開（全7時間）		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (1)	○単元の課題の確認 ・ハロウィンや日本の祭りについて，ALTに口頭で説明しよう。	・ハロウィンについて紹介する写真を用意し，興味を高める環境を整えておく。
第二次 (4) 本時	○ハロウィンについて理解する。（聞く・読む） ・jack-o'-lantern, apple bobbing など ○新出表現の意味・用法を理解するとともに，それらを用いた英文を話したり，書いたりする。 ・義務を表す表現(have to~, don't have to~) ・援助や協力を申し出たり，依頼する表現(shall, will, would) ・見て，聞いて感じたことを言う表現(look, sound)	・ハロウィンについての理解が深まるよう，日本の祭りと比較する。 ・日常生活で使えるよう使用場면을例示する。
第三次 (2)	○新出表現の意味・用法について確認する。 ○ハロウィンや日本の祭りについてジャーナル（日記）に説明文を書き，それを基に口頭で説明する。	・ジャーナル（日記）をペアやグループで発表練習し合い，分かりやすい表現になっているか確認する。 ・ALTとのインタビューテストは後日実施する。

(2) 本時の学習（5/7時間）

目標：

- ・見て、聞いて感じたことを言う表現（look, sound）を用いて、人や物について正しく話す。
- ・アップル・ボビングについての英文を読んで要点を適切に理解する。

展開：

- ①リテリング（ALTのジャーナルを読み、内容をグループで紹介し合う）
- ②グラマーディクテーション（CDの英文を聞き、ディクテーションする）
- ③新出表現（look~, sound~の用法説明・確認）
- ④表現活動（新出表現を用いてペアで会話→会話内容の発表→英作文）
- ⑤本文内容理解

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2内容 (1) 言語活動 「イ 話すこと」(イ)「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」(ウ)「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。」を取り上げて指導するものである。

【言語活動の充実の工夫】

英語の基礎的・基本的な知識・技能を習得するためには、機械的に練習するだけでなく、実際に言語の働きや言語の使用場面を踏まえた自己表現活動を通して定着を図ることが大切である。

また、生徒に新出表現を使用させて自己表現活動を行わせる場合は、「自分たちの生活の中にも同じような使用場面がある。」「その表現を使えば自分の気持ちをもっと上手に伝えることができる。」「既習表現も生かすことができる。」など、それらの表現の利便性を生徒に実感させる必要があると考える。

このため、指導においては、導入・パターンプラクティス・ワークシート等を新出表現が実際に使用される場面に配慮し、できるだけ具体的な内容にするとともに、それらの新出表現を使用せざるを得ない、また、使用したくなるといった必然性のある活動を単元の最終ゴール（活動）として示すなど、単元のゴールとなる活動に向けて日々の授業をつなげていくよう工夫する必要がある。そこで次の活動において以下のような工夫を行った。

○単元の最終ゴール（活動）を常に確認

生徒自身に「本単元では、最終的にどんなことを目指せばよいのか。（どこを目指せばよいのか。）」ということを意識させ、「（この）1時間に行っている、（この）内容はゴールとなる活動にどうつながっているのか。（どんなふうに役に立つのか。）」ということを考えさせるために、常に単元の最終ゴール（活動）を確認していった。

○ALTとのジャーナルの活用

生徒は普段からALTとジャーナル（日記）を交換し、彼らとのやりとりを楽しんでいる。

生徒個人とALTとのやりとりを授業で活用して「話す」活動につなげるために、ALTから各生徒に返されたジャーナルの返事をペアでリテリングする（＝相手から聞いた内容を自分なりにまとめる→まとめた内容を他の生徒にレポートする）という活動を設定した。

この活動では、生徒は聞いた内容を自分の言葉で、他の生徒にレポートしなければならないため、聞く・まとめる・話すという一連の活動に必然性が生まれ、スムーズに展開することができた。

○ALTの活用

「ハロウィンや日本の祭りについてALTに説明しよう。」という最終の活動内容については、ハロウィンの内容理解だけではなく、地域の文化や習慣について生徒が自分なりに考え振り返る機会にもつながった。また、最終の活動を「ALTに発表する」という設定にしたことで、表現する必然性を生徒が意識し、取組への意欲向上につながった。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：②（※分類番号はP5表参照）

外国語－５（第２学年） 読んだ内容について理由とともに自分の考えを書く事例
【学習活動の概要】

1 単元名 「Unit5 A Park or a Parking Area?」

2 単元の目標

- 積極的に自分の考えを伝えようとしたり，相手の考えを理解しようとしたりする。
- 英字新聞の記事を読んで，理由とともに自分の考えを発信する。
- 英字新聞の記事を読んで，その考えを理解する。
- 接続詞 if, that, because, when を用いた文の意味・構造を理解する。

3 評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・勉強と部活動はどちらが大切だと思うか，積極的に自分の考えを伝えようとしたり，相手の考えを理解しようとしたりしている。

【外国語表現の能力】

- ・勉強と部活動についての英字新聞の記事を読み，どちらが大切だと思うか理由とともに自分の考えを発信することができる。

【外国語理解の能力】

- ・勉強と部活動についての英字新聞の記事を読み，その考えを理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

- ・接続詞 if, that, because, when を用いた文の意味・構造を理解している。

4 教材

本事例の教材は，教科書にある駐輪場建設計画について書かれた英字新聞の記事を基に，その中で用いられている新出表現を織り込みながら授業者が作成した「勉強と部活動はどちらが大切か」という仮想の記事である。生徒はそれを読み，どちらが大切だと思うかを理由とともに述べ，他の生徒と意見を交換し，それを基に自分の意見と英語表現を深めることのできる教材である。

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全7時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一時	・ Mike に送られた Fax を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二・三・六時の新出表現の練習は段階を踏んで丁寧に行う。練習の中で新出表現を用いた文を自分の考えで作らせ，自己表現に結び付ける。授業後，教師はその英文を回収して添削し，その表現の使い方について理解を深めさせる。 ・ 新出表現の練習に用いる例文の中に部活動と勉強の大切さについて述べた文を織り込み，第七時に行う言語活動の土台とする。
第二時	・ if を用いた文の意味・構造を知り，自己表現の中で使用する練習をする。	
第三時	・ Mike と Emi の会話を理解し，I think that ~の文を練習する。	
第四時	・ 市の計画についての記事を読む。	
第五時	・ 市の計画に反対する投書を読む。	
第六時	・ when, because を用いた文の意味・構造を知り，自己表現の中で使用する練習をする。	
第七時	・ 勉強と部活動はどちらが大切だと思うかについて，自分の意見を書く。	
本時	・ 勉強と部活動について意見交換をした後，再度自分の意見を書く。	

(2) 本時の学習（7/7時間）

目標：前時に書いた自分の意見を他の生徒と交換した上で，再度意見を書く。

展開：

- ① 4人グループ内で自分の意見を読み上げる。
- ② グループの意見をまとめ，数行の英文で画用紙に書き出し，黒板に掲示する。
- ③ 各グループの意見を全体で読み上げ，様々な意見を知る。
- ④③を参考に最後にもう一度自分の意見を書かせ，自分の意見と英語表現を深める。

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2 内容 (1) 言語活動 エ 書くことの(ウ)には「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。」が、また、ウ 読むことの(ウ)には「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」が加えられた。

本指導事例は、勉強と部活動はどちらが大切かというテーマについて書かれた英文を読み、それについて自分の生活や将来の夢にも触れながら、根拠を示して自分の考えを書くという活動で、まさに新学習指導要領の「読むこと」「書くこと」に新たに付け加えられたこれらの指導事項に合致するものである。

【言語活動の充実の工夫】

①基礎基本の定着と自己表現

語彙や新出表現の定着は、自分の考えを表現するための大切な柱である。そのための練習を段階を踏んで丁寧に行うのはもちろんだが、その際、用いる例文の内容を十分考慮し、勉強と部活動はどちらが大切かについて述べた例文を少しずつ取り入れ、第七時に行う言語活動につなげていく。

また、単なるドリル練習で終わらないよう、各時間の最後に新出表現を用いて自分の考えを表す英文を作成させる。

②言語活動の話題の選定

生徒が活発に言語活動を行うためには、英語表現の定着を図ることはもちろん、生徒が自分の意見を言いたい、他の人の意見を聞いてみたいと思うような生徒の興味に即した話題を選ぶことが欠かせない。本単元の話題は公園の保存と駐輪場の建設だが、この指導事例が実践された学校の付近には駅や駐輪場がなく、生徒にとっては身近な話題とは言えなかった。そこで、言語活動の話題を「勉強と部活動のどちらか一つを選ぶとしたらどちらが大切か」と設定した。中学2年生にとって、勉強は大切だが、自分が中心となって活躍している部活動も同じように大切である。生徒の生活に即した内容を話題に設定したことで、生徒は意欲的に言語活動に取り組んでいた。

③学習形態の工夫

本指導事例の主な活動形態は4人グループである。4人グループ内で一人ずつ自分の意見を読み上げ、お互いに聞き合う。その後、グループとしては勉強と部活動のどちらを大切と考えるか意見をまとめ、画用紙に書き出す。なお、この場面においては、積極的に自分の考えを伝えようとしたり、相手の考えを理解しようとしたりしているかについて、コミュニケーションへの関心・意欲・態度の観点から活動の観察によって評価する。こういったグループ学習の形態を取り入れることにより、意見交換に生徒が意欲的に取り組むことができるような工夫をしている。

この活動を円滑に進めるためには、日頃からペアやグループで協力して課題に取り組んだり、意見を交換したりするなどの活動を継続して行うことが大切である。本指導事例では、第一時から単語練習、音読練習、Q and A、句型練習などを行う際にも生徒が関わり合って学習する場面が随所に見られ、それが第七時の言語活動の活性化につながった。

④考えを深める工夫（個人→グループ→学級全体→個人）

本指導事例では、勉強と部活動はどちらが大切かというテーマについて、生徒は最初に自分の意見を書いた。次に、それをグループ内で発表し、お互いの意見を交換した。そして、グループとしての意見をまとめて画用紙に書き、学級全体で共有した。個人→グループ→学級全体という流れである。学級全体で意見を共有したときは、他のグループの意見を熱心に聞き、クラスメートから出された見事な英語表現を目にした時は、驚嘆の声が聞かれた。普通ならここで言語活動は終わりそうだが、本指導事例では最後にもう一度個人に返し、様々な意見を聞いて自分はどう思うか改めて書かせることで、考えを深め、それを表現することで英語の運用力も高まった。学級全体の発表は活発に意見を交換して盛り上がることで生徒も教師も満足してしまいがちだが、学んだことを最後に個人に返すことで、自立して英語を活用できるようになる。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：①，②，④（※分類番号はP5表参照）

1 単元名 「Program 6 Okinawan Music」

2 単元の目標

自然な速さで話される短い英文を正しく聞き取る。好きな音楽や曲についてスピーチをする。

3 評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

・相手に聞き返すなどして、好きな音楽や曲について言われたことを確認しながら聞き続けている。

【外国語表現の能力】

・好きな音楽や曲についての情報や自分の意見を、まとまりよく話すことができる。

【外国語理解の能力】

・語句や表現、文法事項などの知識を活用して短い英語の内容を正しく聞き取ることができる。

【言語や文化についての知識・理解】

・現在分詞・過去分詞の後置修飾、接触節を用いた文の構造を理解している。

4 教材

本事例の教材は、写真を見ながら沖縄の音楽について会話する場面や沖縄の音楽について発表する場面の英文である。現在分詞・過去分詞の後置修飾及び接触節が新出の文法事項であることから、特定の人や物について話される詳細な内容を正しく聞き取る能力を高めることや、視覚資料を用いながらまとまりよくスピーチを行う言語活動に適した教材である。

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全6時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (2)	・沖縄の音楽に関する対話を聞き取る。 ・人や物を表す名詞について説明を加える言い方を練習する。	・単元のゴールとして「自分の好きな音楽や曲を紹介するスピーチ」を示す。
第二次 (2) 本時	・沖縄の音楽に関するスピーチを聞き取る。 ・教科書本文と一部異なる英文を聞いて、どこが違っているかを聞き分け、説明する。	・自然な口調で話される英語に繰り返し触れる機会を設定する。
第三次 (1)	・質問例を参考にしながら、ペアで自分の好みの音楽や曲について対話をする。 ・相手を変えながら繰り返し練習することで、なめらかに対話できるようにする。 ・対話した内容を基に必要な情報を加えて5文以上のスピーチを完成させる。	・人や物を表す名詞について説明を加える言い方を意図的に用いる。 ・理解できなかったことを聞き返したり、言われたことを確認したり、興味のあることを更に質問したりしながら聞き続けるよう意識させる。また、必要な語彙や表現を練習させる。
第四次 (1)	・ペアやグループでスピーチを行う。 ・相手を変えながら繰り返し練習することで、なめらかにスピーチができるようにする。 ・印象に残った友だちのスピーチを紹介する英文レポートを書く。	・絵や実物を示して聞き手の理解を容易にするなどの工夫をさせる。 ・聞き手に分かりやすく話すように意識させ、より良いスピーチとなるよう改善させる。

(2) 本時の学習（3/6時間）

目標：自然な速さで話される短い英文の内容を、正しく聞き取る。

展開：

- ① 自然な口調の英文による説明を聞いて、絵の中で欠けている情報を聞き取る。
- ② 教科書本文の沖縄の音楽に関するスピーチやその他のスピーチを聞き取る。
- ③ 教科書本文と情報が異なる英文を聞いてどこが異なっているかを聞き分ける。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くことの(イ)「自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。」の指導事項に関わる事例である。

自然な口調の英語、すなわち、現代の標準的な発音で正しい強勢、イントネーション、区切りを伴い、適切な速さで話されたり読まれたりする英語を聞いて、音の変化やスピードに対応して事実や出来事などについての必要な情報を正しく理解することを指導するもので、基礎的・基本的な言語活動である。

なお、聞かせる英文やスピーチの題材は、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して決定すべきである。教科書の英文を参考にしやすいように「好きな音楽や曲」とすることもよいが、自国の伝統文化について外国の人々に発信できる素養を培うことも必要であるため、風俗習慣や伝統文化を紹介する発展的なスピーチとしてもよい。

【言語活動の充実の工夫】

伝えられている必要な情報をきちんと受け止めること、つまり何が言われているかを的確にとらえることは、内容に応じたり応答したりするための前提となる技能である。したがって、比較的短い英文を聞いて、その中で出てくる事実や話されている出来事、話者の考えなどの情報を吟味しながら正しく理解することが大切である。

① 自然な口調の英文による説明を聞いて、絵の中で欠けている情報を聞き取る。

【工夫点】

- ・ 絵を見て、事前にどのような英文が読み上げられるかを想像させる。
- ・ 日本語を介さずに聞くように注意させる。
- ・ 欠けている情報を絵で描き加えさせたり、英文を言わせたりする。

② 教科書本文と情報が異なる英文を聞いてどこが異なっているかを聞き分ける。

【手順】

- 1) 教師が話す英文の中で、教科書本文と異なる情報に気付いたときは、英文を聞いた後に "Doubt!" (又は False!) と言う。
- 2) 教科書本文と異なる語 (句) を発表する。
- 3) できれば、文全体を正しく言い換える。

【工夫点】

- ・ 単語練習、句や節ごとの繰り返しや音読練習等を行い、生徒が内容をよく理解した後に行う。
- ・ 1文ずつ聞かせて、事実や話者の考えなどの情報を正しく理解できるようにする。
- ・ 何度か聞かせて、自然な口調の英文に慣れるようにする。
- ・ 活動自体や英文の速さにある程度慣れてきたところで、教科書本文と異なる語を正しく見付けているかどうかを見極め、自然な速さで話される短い英語の内容を正しく聞き取る能力について評価する。
- ・ 1回目とは違う部分を変えてもう一度聞かせる、教科書を見ながら聞かせてもう一度聞かせて音と語の結びつきを強化するなど、変化をもたせて、繰り返し集中して聞かせる。
- ・ 正しい英文に言い換えることを重視した活動や生徒同士による活動など、「話すこと」の言語活動へと発展させることもできる。

A lot of new songs are written in Okinawa every day. [year]

Many famous musicians and singers were born there too.

So, there are a lot of singers of Okinawan music all over Japan. [fans]

They like the unique melody.

I like "Shimauta" the best of all the songs written in Okinawan melody.

The song expresses a special message through its words — a wish for happiness. [peace]

(以下省略)

※アンダーラインが異なる情報、[] が正しい情報

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：② (※分類番号はP5表参照)

1 単元名 「Let's Read 3 The Fall of Freddie the Leaf」

2 単元の目標

- 物語を読んで，場面の移り変わりや登場人物の心情などを理解することができる。
- 物語の内容が聞き手に伝わるように感情を込めて音読することができる。
- 物語を聞いたり読んだりする活動や感想を述べ合う活動に積極的に取り組む。

3 評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・物語を聞いたり読んだりする活動や感想を述べ合う活動に，積極的に取り組んでいる。

【外国語表現の能力】

- ・物語の内容が聞き手に伝わるように感情を込めて音読することができる。

【外国語理解の能力】

- ・物語を読んで，場面の移り変わりや登場人物の心情などを理解することができる。

4 教材

The Fall of Freddie the Leafはリーディング教材であるが，第3学年卒業前の最後の単元となるため，既習事項を生かし，「聞くこと」も関わらせながらこれまで培ってきた4技能を総合的に発揮させる学習を展開する。また，物語のもつメッセージに気付かせるとともに，生徒個々の考えを交流する学習活動とする。

5 主な学習活動

(1)単元の展開（全6時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 本時	・教科書を見ないで物語を聞き取り，グループで交流しながら概要を把握する。	・音声情報に集中させ，場面変化や人物の心情をイメージさせる。
第二次 (3)	・発問にしたがって精読し，物語の内容を理解する。 ・まとまった英文を一定の速さで感情を込めて音読（暗唱）する。 ・読み取った内容をQ&Aで確認する。	・2時間で教科書2ページずつ（計6ページ）読み取り，扱う英文の量を増やす。 ・「ことばの働き」に注意して読み取らせる。 ・既習の文構造等に注目させる。
第三次 (2)	・物語の感想文を英語で書き，発表する。 ・発表に対して，感想を述べ合う。	・相手意識をもって発表し，聞く側も真剣に聞かせる。

(2)本時の学習（1/6時間）

目標：物語の大まかな流れを聞き取り，聞き取った内容を英語で説明する。

展開：

- ①ALTが音読する物語を聞きながら，登場人物，場面等についてのメモをとる。
- ②グループ（4人）で聞き取った情報を交流しながら，物語の流れを確認していく。
- ③再度物語を聞きながら，1回目では聞き取れなかった情報を各自で補う。
- ④各グループで画用紙に物語の内容についての簡単なイラストを描き，他のグループに英語で説明する。
- ⑤教師からの物語の内容についての質問に答える。
- ⑥教科書を黙読して内容（概要）を確認する。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くことの(イ)「自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。」、(オ)「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。」を取り上げて指導するものである。

【言語活動の充実の工夫】

リーディング教材は、「読むこと」を通して感じたり、考えたりしたことを共有し合うという言語活動に発展できるものである。本単元では、単元導入時に、はじめのインプット情報を音声に限定することで、生徒が物語の内容（概要）を集中して聞き取ったり、長い英文の中から必要な情報を取り出したりする Pre-Reading 活動を位置付けている。

耳から得た情報を基に物語の内容を想像させ、教科書を開いて読んでみたいという生徒の興味・関心を引き出す活動でもある。

実際の授業では、ALT の音読を聞き取ることとした。そのため、ALT との事前打ち合わせにおいて、感情を込めて音声化するには、という点で意識統一を図った。

○比較的長い英文から、登場人物、場面の移り変わり、心情などの情報を聞き取らせる

本単元は教科書 6 ページにわたる物語である。本時においては、聞き取りにより物語の詳細を理解させるのではなく、物語文を文字で読むときと同様に、「5W1H」を中心に聞き取らせることにより、最小限のメモをとりながら概要をつかませるよう指導した。

支援の必要な生徒については、個別に 5W1H などの聞き取りのポイントを与えて取り組ませるように配慮した。

未習語については、leaf-leaves など何度も繰り返し出てくる重要語句のみ、イラストと語句が書かれたカードを黒板に掲示して、理解の補助とした。

ALT が CD と同じ速さで本文を二度音読した。生徒は、日本語や英語でメモをとったり、矢印で登場人物の関係を示したりしながら、一人一人が集中して取り組んでいた。

○少人数のグループで、聞き取った情報について交流し合う

教科書を閉じさせたまま、4人グループで、聞き取った情報に基づいてお互いのメモの内容や考えを交流し、物語の流れを確認させた。聞き取った情報から、物語の展開を想像したり、誤って聞き取っている部分を修正したりすることができた。

次に、グループで4枚の画用紙に場面展開を表す簡単なイラストを描かせ、そのイラストを基にして他のグループに英語で説明する活動に取り組ませた。物語の内容を何とか相手に伝えようとする中で、既習事項が活用されるとともに英語を使う経験を増やす効果があった。

その後、教師が物語の内容について英語でいくつか質問をし、生徒の反応をとらえながら、正しく理解しているかどうかを確認した。この時点で大部分の生徒が物語の概要を把握していた。互いの発話の中で何度も英語を耳にしていることが効果的であった。

生徒も互いの発表を興味深く聞きながら、自分たちの物語と他のグループの物語を照らし合わせながら理解を深めていた。

○「早く読みたい」というタイミングでまとめの黙読に取り組ませる

音声のみで概要把握してきたことから、生徒は教科書を開いて早く読みたいという気持ちになっていた。物語に対しての興味・関心が高まったところで教科書を開かせ、学習のまとめとして黙読に取り組ませた。

静寂の中、生徒が英文を読むその姿からは、物語に没頭している様子が伺えた。音声インプットの後、文字（英文）でインプットしたことで、情報は確かなものになっていった。

単元の第1時に、「聞くこと」の活動を設定することにより、教材に対するモチベーションを引き出して学習に入ることは、効果的であった。第2時以降の学習に向け、生徒のコミュニケーションへの積極性が継続されることとなった。



聞き取った情報についてのグループ交流

1 単元名 「Unit 1 Flower Viewing」
2 単元の目標 ○ 相手が納得できるように理由をつけて自分の考えや気持ちを伝える。 ○ 「～に…するよう言う/頼む tell/ask～to…」の文構造・意味を理解する。
3 評価規準 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ・既習の表現やジェスチャーを用いて、自分の考えや気持ちを話している。 【外国語表現の能力】 ・理由をつけて自分の考えや気持ちを伝え、相手を説得できる。 【言語や文化についての知識・理解】 ・「～に…するよう言う/頼む tell/ask～to…」の文構造・意味を理解している。
4 教材 本單元では、バスの中で、赤ちゃんを抱いて立っている女性が目の前にいるにもかかわらず、席を譲らない青年が取り上げられている。まず、この青年に席を譲るよう説得する活動を行う。さらに、マナーの悪い人がいる状況をいくつか設定して、どう解決するかを示すスキットを作成させることにより、相手が納得できるように理由をつけて自分の考えや気持ちを伝える力を養うとともに、公共の場でのマナーについて考える。何が課題かを発見し、いかに解決するかを考え、そのためには相手をいかに説得すればよいかを考えながら実際に交渉することで、思考力・判断力・表現力を育成する。ALTとのTTを行うことで、モデルスキットを提示したり、生徒がスキットを作成する際は、2人が同時に支援に当たることができるようにする。

5 主な学習活動
 (1)単元の展開（全7時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の対話の内容を理解する。 「～に…するよう言う/頼む tell/ask～to…」の文構造・意味を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書本文を読解する前に、既習の表現を用いて、挿絵の人物をそれぞれ描写させ、状況を推測させる。バスの中の場面は、何が課題かを考えさせる。 教科書本文から、自分の気持ちを伝えたり、相手を説得するのに有効な表現や、相手に反論したり認めたりするのに役立つ表現を探させる。 I think～ because~/You should~/Let's~/I feel~/I don't think～ because~/You mean~/OK. You win. 等の表現が有効なことを確認する。 既習の表現やジェスチャーを使わせる。 自分の考えを伝え合う言語活動をさせながら、語彙や表現の誤り等については取り出して指導し、文法は活用させながら定着を図る。
第二次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 自分とは違う立場から物事を考えて意見を述べる練習をする。 テーマについて、理由をつけて自分の意見や気持ちを述べる練習をする。 相手を上手に説得する練習をする。また、相手の意見の意味を確認したり、反論したり、納得したりする表現の練習をする。 教科書に登場するマナーの悪い人に対して席を譲るよう説得する練習をする。注意する役とされる役に分かれて役割演技する。 公共の場でのマナーについて、グループごとにスキットを演じる。 本時 スキットの中で誤った使用表現があれば、適切なものに直したり、より適切な表現や別の表現方法を理解する。 	

(2)本時の学習（全6/7時間）

目標：相手が納得できるように理由をつけて自分の考えや気持ちを伝える。 展開： ①相手を説得する際の表現を確認する。 ②教師のモデルスキットを見る。 ③公共の場での問題行動に対して注意する人とされる人とは分かれ、どのように振る舞うかのスキットを作成し、演じる。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2 内容(1)言語活動 イ 話すことの(イ)「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」と、(エ)「つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。」を取り上げ、その際、(2)言語活動の取り扱い イ(ウ)第3学年における言語活動の「様々な考えや意見などの中からコミュニケーションが図れるような話題を取り上げること。」に留意する。また、第3の3「…道徳の時間などとの関連を考慮しながら…」とあるが、公共の場でのマナーを考えさせることにより、道徳教育との関連を図る。

【言語活動の充実の工夫】

課題発見・解決能力、論理的思考力、多様な視点から考察する能力(クリティカル・シンキング)、コミュニケーション能力の育成が求められている。本單元においては、マナー違反について考えさせるとともに、それを発展させた、より現実的な場面を設定し、そこでの対話を考えさせることにより、上記能力や技能の向上を図る。演じる際は、衣装や小道具も用意し、臨場感のある演技とする。

毎時間の授業で、テーマを与えて1分間対話を続ける練習をさせ、以下のステップにより、より効果的に相手に交渉したり説得したりできるようにする。なお、Step1・2は、教科書を基にした活動であり、Step3・4はオリジナルのものである。生徒の学習の到達状況や日常生活における課題等、実態に応じて場面設定を考える。

Step 1: 自分とは違う立場から物事を考えて意見を述べる。

① 「嫌い」の立場で理由をつけて意見を言う。

(Sunday / cakes / TV)

② 「好き」の立場で理由をつけて意見を言う。

(Monday / snakes / homework)

例: I don't like Sunday because I can't meet my friends.

I like snakes because it looks strong.

Step 2: テーマについて、理由をつけて自分の意見や気持ちを述べる。(2人1組になって、次の質問について互いに聞き合う。)

○ When you are free, which do you like better, watching a baseball game or seeing a movie? Why?

○ Someone says to you, "I love you." Which is better, by phone or by letter? Why?

Step 3: 教科書に登場するマナーの悪い人に対して、席を譲るよう説得する。

① 挿絵の人物の問題点を指摘する。(バスの中で携帯使用、席を独り占め 等)

② 問題行動に対して、理由をつけて注意する。

Step 4: グループごとに、次の場面と役割分担でスキットを作成して演じる。

まず、各場面における問題点を考え、スキットにおいては、問題点を指摘し注意する人と、される人に分かれる。注意を受けた人は、すぐには納得せず、まずは反論する。それに対して、いかに説得するかを考える。スキットを見ている生徒には、マナー違反を注意する場面について、「～に…するよう言った/頼んだ told/asked~to …」の文を作らせることで、文法の定着を図る。

Situation 1: You are on a bus. An old man gets on the bus. He has difficulty standing. The bus is full. Some of your friends are seated. What do you say to them?

* characters: old man / friends / main character(s)

Situation 2: You go to a convenience store with your friends. Each of you buys something.

When you get outside, some of your friends throw their trash on the ground. What do you say to them?

* characters: a convenience's clerk / friends who throw trash on the ground / main character(s)

Situation 3: You are on a train with your friends. At the next stop many people may get on the train. Your friends have their school bags and their feet on the seats next to them.

Other people cannot take seats. What do you say to your friends?

* characters: other passengers / friends with bags and feet on seats / main character(s)

○ 毎授業始めの活動

決められたテーマの下、毎時間ペアで1分間会話を続ける。質問されたことに対して、Yes / Noだけで答えるのではなく、自分の言葉を付け加えること、また、うなづいたり、相づちを打ったりすることで、互いに気持ちよく会話を続けるようにする。

例: A: What did you do last weekend? (今日のテーマ)

B: I went to Tokyo. I was very busy. (事実に対する気持ちを言う。)

A: Really? Why? (つなぎ言葉で会話を円滑に進める。)

B: Because I visited my grandmother in Tokyo and joined a festival with her. She enjoyed dancing in the festival.

A: Your grandmother enjoyed dancing? Wow!

(相手の言ったことを繰り返すことにより、相手がさらに気持ちを伝えやすくする。)

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類: ①, ②, ④ (※分類番号はP5表参照)

外国語－9（第3学年） 場面や登場人物の心情を考えながら物語を読む事例
【学習活動の概要】

1 単元名 「Let's Read 1 A Mother's Lullaby」

2 単元の目標

- 場面や登場人物の心情を考えながら、積極的に物語を読んでいる。
- 感情を込めて音読することができる。
- 場面を想像しながら、書かれた内容を読み取ることができる。
- 場面に応じた音読の仕方を身に付けている。

3 評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・気持ちを込めて繰り返し音読している。

【外国語表現の能力】

- ・場面や登場人物の心情にふさわしい音読をすることができる。

【外国語理解の能力】

- ・場面や登場人物の心情を理解しながら、書かれた内容を読み取ることができる。

【言語や文化についての知識・理解】

- ・場面や登場人物の心情にふさわしい音読の仕方を身に付けている。

4 教材

本単元は、広島に原爆が投下された後、泣き叫ぶ男の子に子守歌を歌い続けた少女の物語であり、戦争の悲惨さや命の尊さなどについて考えさせる読解教材である。子守歌を歌う少女の気持ちや題名の意味などについて考えさせる問いを発したり、場面や登場人物の心情を踏まえた音読の仕方を考えさせたりすることにより、物語のあらすじを正確に読み取ることができる力を養う。

5 主な学習活動

(1)単元の展開（全7時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (1)	・広島に投下された原爆について理解する。 ・物語のあらすじを理解する。	・広島に原爆に関する客観的事実について理解を深めさせるとともに、物語の概要をつかませる。
第二次 (4) 本時	・各場面の内容を理解する。(場面1～4) ・各場面や登場人物の心情が伝わるように、音読の仕方を工夫する。 本時4/4	・各場面の内容を理解し、深く読み取らせる。
第三次 (1)	・班ごとに本文の音読練習をする。 ・感情を込めて音読できるようにする。	・気持ちを込めて音読させる。
第四次 (1)	・本単元のまとめをする。 ・単元テスト	・各場面を振り返り、発表活動に結び付ける。(4技能の統合)

(2)本時の学習（5/7時間）

目標：場面や登場人物の気持ちを思い浮かべながら、感情を込めて音読する。

展開：

- ①場面4の内容について、印象に残った英文を選び、その理由を英語で発表する。
- ②場面や登場人物の心情にふさわしい音読練習を行う。
- ③班ごとに互いの音読を評価し合い、音読の仕方を更に工夫する。
- ④自己評価を行う。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2 内容 (1) 言語活動 ウ「読むこと」の(イ)「書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。」及び(ウ)「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。」を取り上げて指導するものである。指導に当たっては、黙読や音読の特徴を十分に生かすようにしたり、手掛かりとなる語句や表現をヒントとして与えたりしながら、正確な読み取りのための配慮が必要であることが、解説に記されている。

【言語活動の充実の工夫】

1 言語活動を行う上で、次のことに留意している。

- 1時間の授業または1単元の中で、生徒が思考し、判断し、表現するなどの場面を設定することが大切である。
- 「読むこと」の指導に関しては、教師が一方向的に説明するなど、生徒にとって受け身の活動に陥りやすい。そうならないため、生徒自らに気付かせたり、生徒相互に評価し合う言語活動を工夫することが大切である。
- 音読については、登場人物の心情を理解した後、その気持ちが伝わるような読み方を工夫させるなど、生徒自らに考えさせる言語活動を工夫することが大切である。
- 各場面の理解を深める言語活動は、ワンパターンになりやすいため、各場面の指導に変化をもたせ、生徒を飽きさせない工夫が必要である。

2 第二次における言語活動の充実のための工夫については、次のとおりである。

(場面1 p.32)

- ・ ピクチャーカードなどを活用しながら、ネイティブの英語を聞かせ、場面の状況が変わる部分に気付かせる。接続詞の重要性を理解させる言語活動の工夫。ここでは、リスニングの音の変化だけでなく、接続詞 *but* に注目させ状況の変化に気付かせることが大切である。

(場面2 p.33)

- ・ 教科書を閉じ、最初の4行の英文を並べ替えさせ、その理由を発表させる。代名詞や副詞句に着目させ、読み方を考えさせる言語活動の工夫。例えば、次のように英文の順番を変えて提示した後、生徒は手掛かりを見つけながら、英文を並べ替える。

ア They had burns all over their bodies.

イ On the morning of that day, a big bomb fell on the city of Hiroshima.

ウ Many people lost their lives, and many others were injured.

(場面3 p.34)

- ・ 教科書を閉じ、3つのパラグラフを生徒に提示し、話の流れがスムーズになるように並べ替えさせ、その理由を考えさせる。生徒には、3行ずつ3つのパラグラフを提示する。前時は英文の並べ替えであったが、ここでは、一歩進んでパラグラフの並べ替えを行う。主体的な読みにつながる言語活動の工夫。

(場面4 p.35)

- ・ 最も印象に残った1文を選ばせ、その理由を英文で書かせ自己表現をさせる。既習表現を活用しながら行う統合的な言語活動の工夫。これまで学習した文構造や表現を用いてまとまりのある英文を書かせ、思考し、判断し、表現させる活動である。

(例) 印象に残った英文：But the little mother did not stop singing.

I was very sad to read this sentence, because the young girl didn't notice the boy's death. She was also injured, but she tried to be his mother. I think the boy was happy with his "mother" when he died.

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：② (※分類番号はP5表参照)

1 単元名 「Let's Read 2 Family Rules」

2 単元の目標

- 未習語があっても、前後の流れから推測して内容を読み取ろうとする。
- アメリカのしつけについて自分の感想を書くことができる。
- 英文を読んで、日本とアメリカのしつけについての考え方の違いについて理解することができる。

3 評価規準

- 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・未習語があっても、前後の流れから推測して内容を読み取っている。
- 【外国語表現の能力】
- ・アメリカのしつけについて自分の感想を書くことができる。
- 【外国語理解の能力】
- ・アメリカのしつけについての考え方を読み取ることができる。

4 教材

まとまった英文を読み、アメリカの家庭生活の様子を理解し、アメリカのしつけの在り方について考える単元である。この単元を学習する段階では中学校において取り扱う文法事項はすべて既習であるため、それらの知識を活用しながら、まとまった英文を読み取ることができる力を養う。「タイムアウト」や「外出禁止令」といったアメリカのしつけについて自分なりの意見や感想を書くことができるよう、英問英答や書き手の意向を踏まえた音読などを通して書き手の意見を読み取る言語活動を取り入れる。

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全４時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一時	・ 全体の内容を大まかに把握する。 （各段落の最初の文を抜き出し、アットランダムに生徒に提示し、順番通り並べ替えるようにグループで考える。）	・ 逐語和訳するのではなく、あらすじを大まかに読み取らせる。
第二時	・ 前半部分の「タイムアウト」についての英文に出てくる重要表現や語句について確かめる。 ・ 内容についての英問に答え、段落ごとの意味を把握する。 ・ 音読する。	・ 音読については、ペアやグループ活動等を取り入れ、マンネリ化しないようにする。
第三時 本時	・ 後半部分の「外出禁止令」についての英文に出てくる重要表現等について確かめる。 ・ 内容についての英問に答え、段落ごとの意味を把握する。 ・ 音読する。	・ 第二時に同じ。
第四時	・ アメリカのしつけについて、日本と比べながら自分の考えをまとめ、舞に返事を書く。	・ 事例や根拠を示しながら、自分の考えを書くように指導する。

(2) 本時の学習（３／４時間）

目標：「タイムアウト」の内容を読み取り、意味内容にふさわしい音読をする。

展開：

- ① 新出語句の確認

- ・辞書を活用し、教科書以外の例文も確認する。
- ・CDを聴きながら、発音やアクセントを確認する。

②内容把握

- ・英問に答える。(ある程度自分で考えたらペアやグループで確認する。)
- (1) How old is Kelly?
- (2) Why was she grounded by her parents?
- (3) When are American teenagers grounded?
- (4) Why does Mai think her host families are very good parents?
- (5) Do you agree to the idea, "It takes work and patience to have a happy family?"
- (6) Why do you think so?

③音読

- ・コーラスリーディング (CDの後についてリピートする。)
- ・シャドーイング (CDの音声と同時に音読する。)
- ・リード&ルックアップ
- ・四方読み
- ・ペアワーク読み (ペアで交互に音読する。)
- ・グループワーク読み (4人グループで順番に流れよく音読する。)

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

新学習指導要領においては、4技能をバランスよく育成することの必要性が強調されているが、本単元はLet's Readという読み物教材であるため、「読むこと」に焦点をおいた指導を計画した。その上で、今回の改訂では、「読むこと」において(オ)「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考えなどをとらえること。」が新たな指導事項として付け加えられていることを考慮し、単元の最後に、学習した内容を踏まえて、書き手に対して意見や感想を述べる英文を書く活動を取り入れた。

【言語活動の充実の工夫】

単元の最後の時間で意見や感想を書くために、それまでの授業において、

- ・英文を英文のまま段落ごとに読んだり、書き手の意向を踏まえながら音読したりする活動を多く取り入れる。
 - ・文章を読む前に、英問を生徒に示すことにより、どのような内容を読み取ったらよいのかを事前に生徒に把握させ、そのことを意識しながら読解できるようにする。
- といった工夫を取り入れた。その際、
- ・生徒が、「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり、賛否やその理由を示したり」できるように、内容把握のための英問に、賛否やその理由が答えとなるような問いを加える。
 - ・音読においては、意味内容を正しく理解し、その内容にふさわしく音声化することの意義を説明するとともに、ペアやグループといった学習形態を活用しながら様々なバリエーションによる音読活動を取り入れ、積極的に音読できるように工夫する。

などの点に注意した。

これらの工夫により、英文を一文ごとに和訳させるのではなく、英問に答えられるように読解する活動により、「読む」ことの必然性を与えることができたと考える。また、第一時で、単元の最後に舞に返事の手紙を書くという活動を行うことを生徒に示したことにより、批判的に読むという意識を生徒にもたせることができた。さらに、批判的な読解を促進するために、自分の家族の決まりやしつけを思い起こさせ、本文の内容と比較しながら、それぞれの良さや課題点について、根拠や理由を示して舞に返事を書くように指導したり、手紙文を書いた舞に、実際に返事を書くという設定の下で書く活動を行ったりしたことで、自分の考えや意見が舞に伝わるように「書く」活動につながった。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：①，②，④ (※分類番号はP5表参照)